

「デジタルスキル標準（DSS）」の狙いと内容 - DXリテラシーと5つの人材類型が担う業務と責任 -

2023年4月

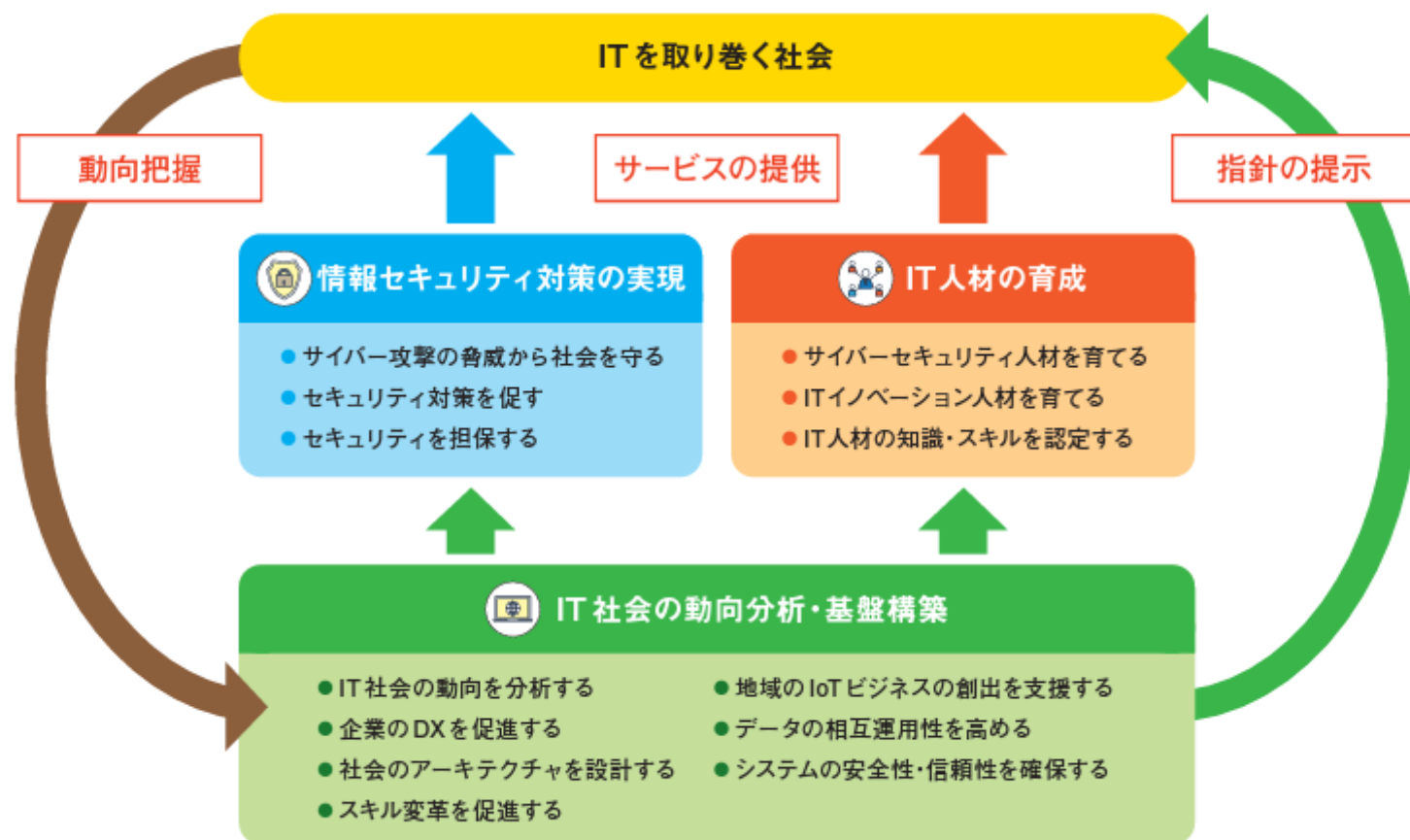


独立行政法人情報処理推進機構（IPA）

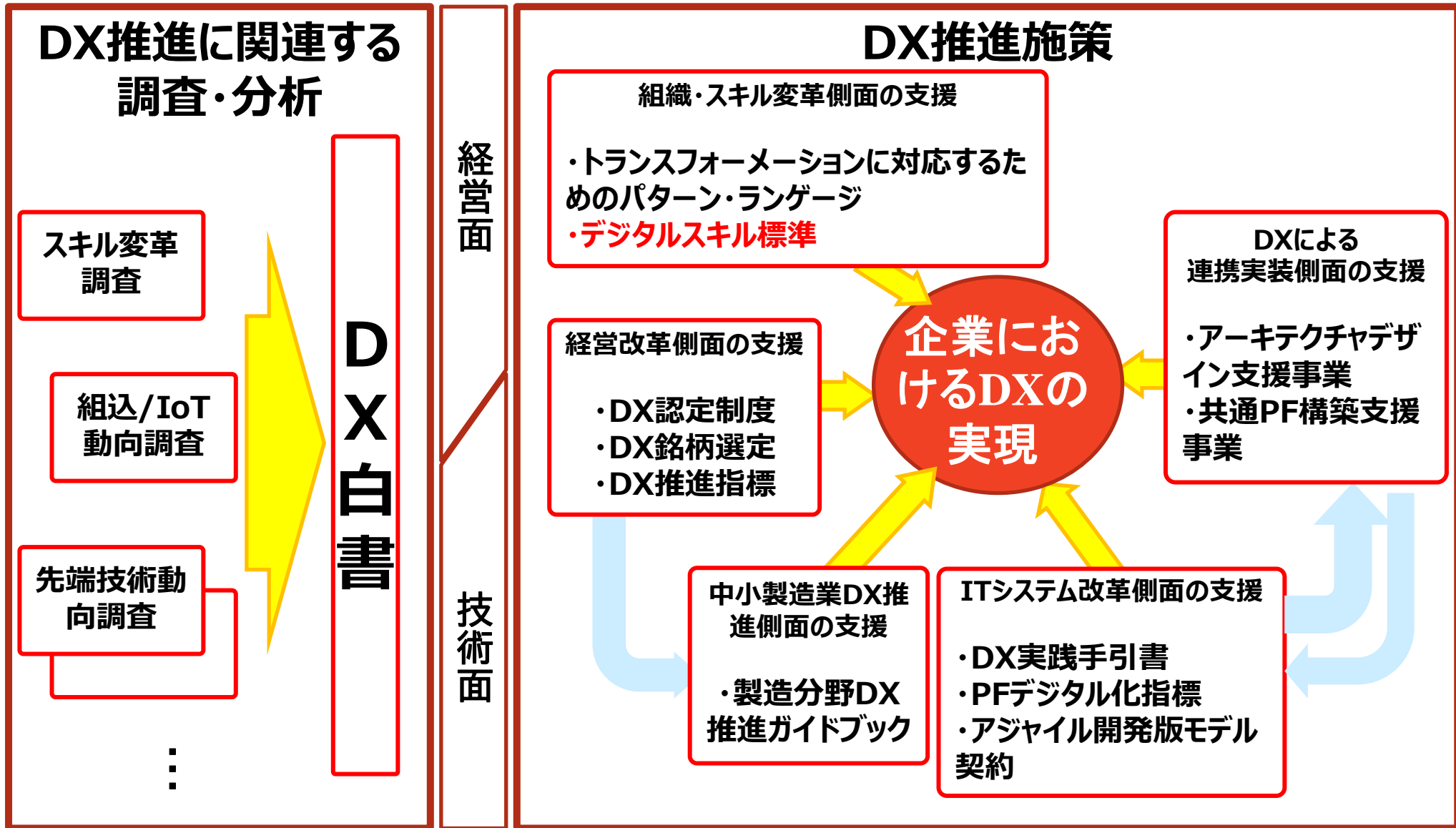
The screenshot shows the homepage of the Information Processing Agency (IPA). At the top left is the IPA logo and name in Japanese: 独立行政法人 情報処理推進機構. The top navigation bar includes links for 'IPAについて', 'お問い合わせ', 'English', '公式SNS', a search bar, and '目的別に探す'. Below this are secondary navigation links: '情報セキュリティ', '試験情報', 'デジタル人材の育成', and '社会・産業のデジタル変革'. The main banner features the title 'DX 白書 Digital Transformation 2023' in large, stylized characters. To the right of the banner is a smaller version of the white paper cover, which includes the subtitle '進み始めた「デジタル」、進まない「トランスフォーメーション」'. Below the banner is a '重要なお知らせ' (Important Notice) section with two entries: one dated 2023年03月31日 regarding the website renewal, and another dated 2023年03月30日 regarding system maintenance. Below this is a 'NEWS' section with two columns. The left column is titled '新着情報' (Latest Information) and features a notice dated 2023年3月31日 about the website renewal. The right column is titled 'プレスリリース' (Press Release) and features a notice dated 2023年3月16日 about a press release regarding information processing and communication.

<https://www.ipa.go.jp/>

IPAの役割・事業領域

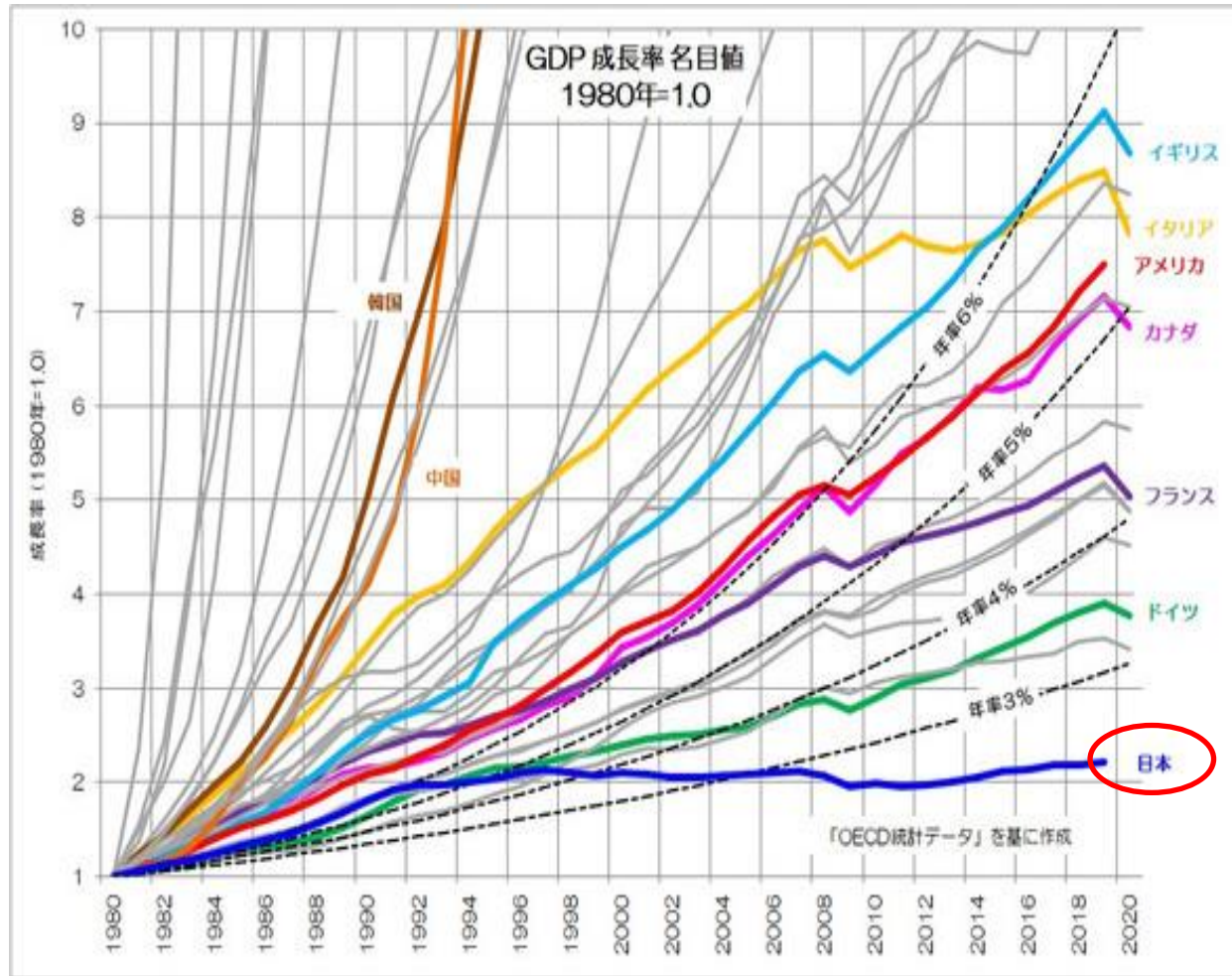


社会基盤センターにおけるDX推進の取組み



高度経済成長時代の終焉

- 日本のGDP成長は20年以上停滞



- ◆ 日本以外の先進国はGDP数倍増
- ◆ 日本では人口減・デフレ・成長戦略の模索が続き、成長が停滞
- ◆ デジタルで変革を進めるDXが一つの起爆剤として期待されるが…

出典 : Monoist 2021年04月19日「成長しない日本のGDP、停滞の20年で米国は日本の4倍、中国は3倍の規模に」
https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2104/19/news005_2.html

長期低落傾向にある日本の国際競争力

- 1995年以降、日本の競争力は若干の上げ下げはあるものの、**長期低落傾向**が続いている。
- デジタル競争力も同様であり、特に**人材、うちデジタル・技術スキル**のランクが低い。

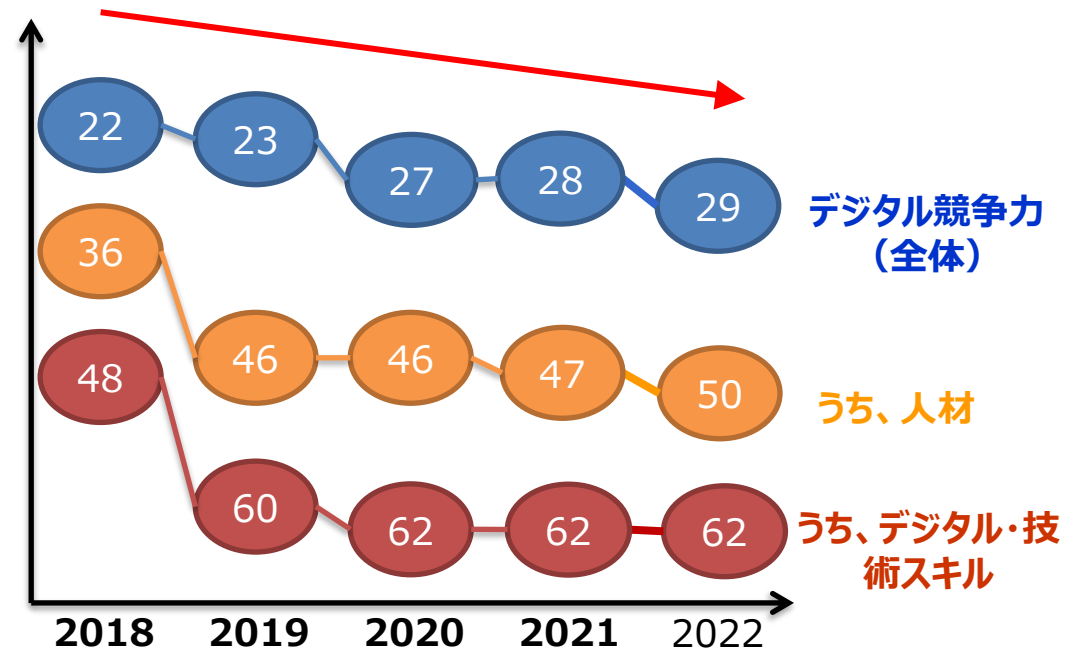
IMD世界競争力ランキング推移



出典) IMD「世界競争力年鑑」各年版より三菱総合研究所が作成したものに2022年データを追加

IMD世界デジタル競争力ランキング推移

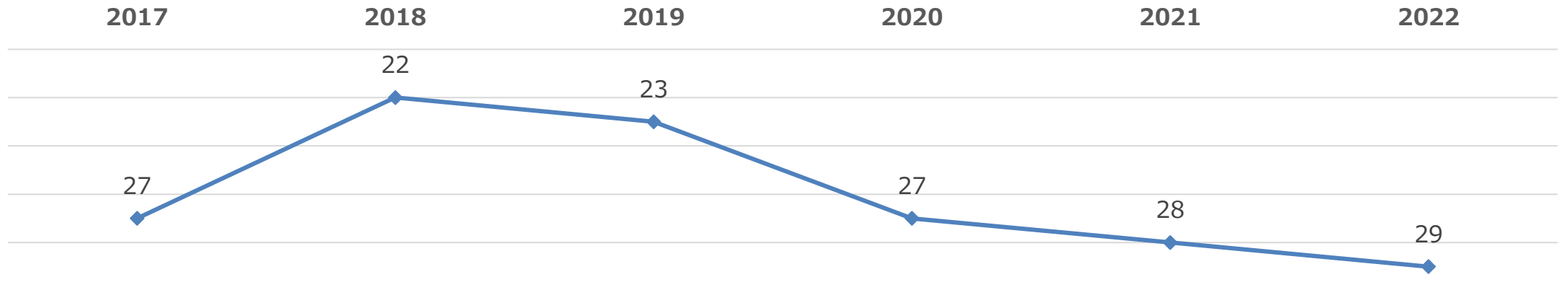
日本のランキング (全63ヶ国中)
※2021年のみ全64カ国中



出典) 経済産業省「デジタル時代の人材政策に関する検討会」資料に2022年データを追加

日本は過去最低の29位に

デジタル競争力日本のランキング推移（63カ国中）



特に低評価だった指標（63カ国中）

デジタル技術・
スキル

62位

ビッグデータや
データ分析の活用

63位

技術の開発・
利用の送信

41位

海外経験

63位

機会と脅威に即応
できる組織体制

63位

俊敏な意思決定・
実行

63位

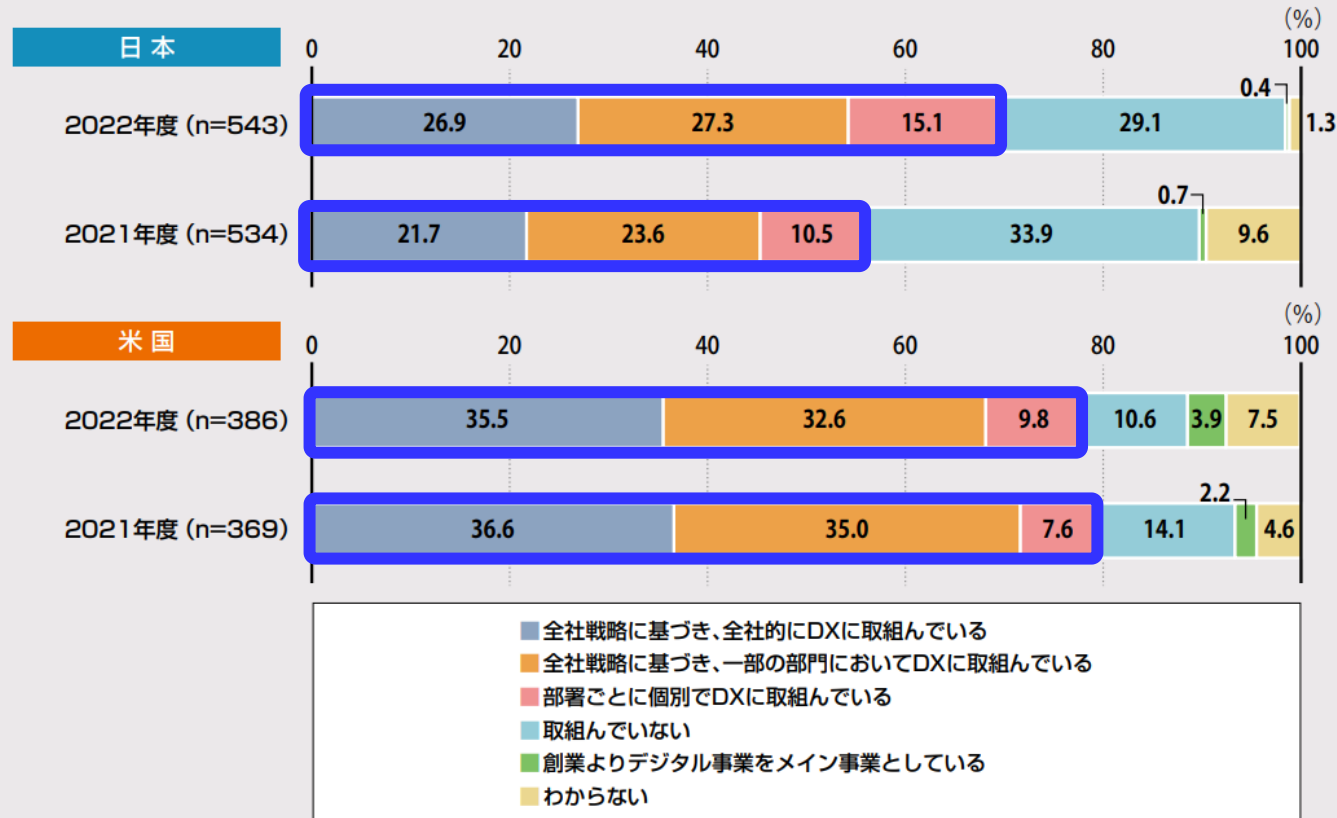
出典：IMD World Digital Competitiveness Ranking 2022をもとにIPAが作成

<https://www.imd.org/centers/world-competitiveness-center/rankings/world-digital-competitiveness/>

我が国企業のDXへの全社的な取組は進まず

- デジタル技術を活用した経営改革（DX）の重要性は年々高まっており、日本でも「DXに取り組んでいる企業」は増加しているが、全社横断での組織的な取組は進んでいない。
 - 日本で「DXに取り組んでいる企業」は、2021年度は55.8%に対して2022年度は69.3%に増加。
 - 「全社戦略に基づいて取組んでいる企業」は、米国が68.1%に対して日本が54.2%。

図表 1-7 DXの取組状況

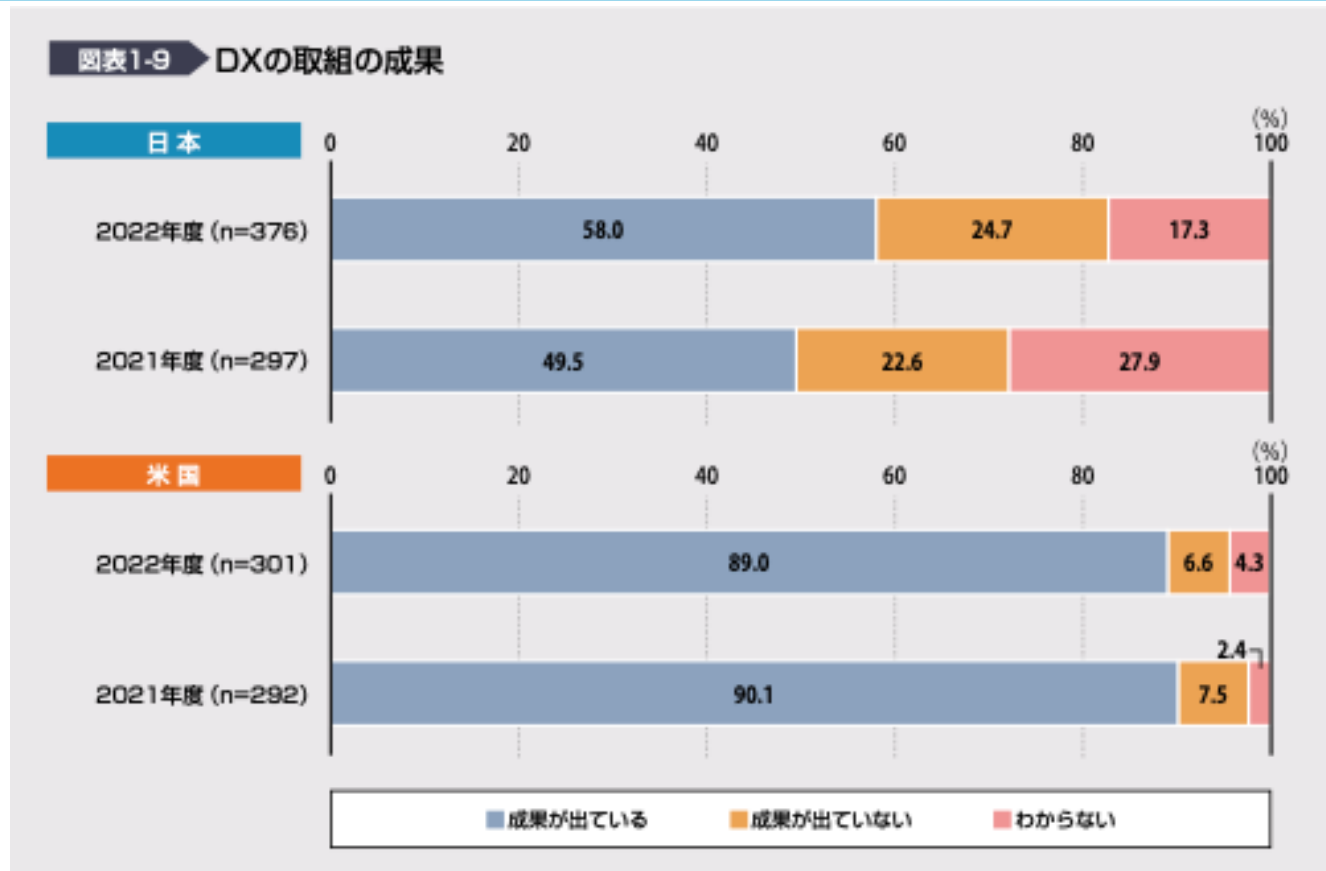


<参考> 経済産業省におけるDXの定義【経済産業省「デジタルトランスフォーメーションを推進するためのガイドライン」（DX推進ガイドライン）より】

「企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること」

我が国企業のDXへの全社的な取組は進まず

- 日本でも「DXに取り組んでいる企業」は増加しており、成果は出つつあるが、成果の創出において日米差は歴然として大きい。
 - 日本で「成果が出ている企業」は、2021年度は49.5%に対して2022年度は58.0%に増加。
 - 米国が89.0%に対して日本が58.0%。

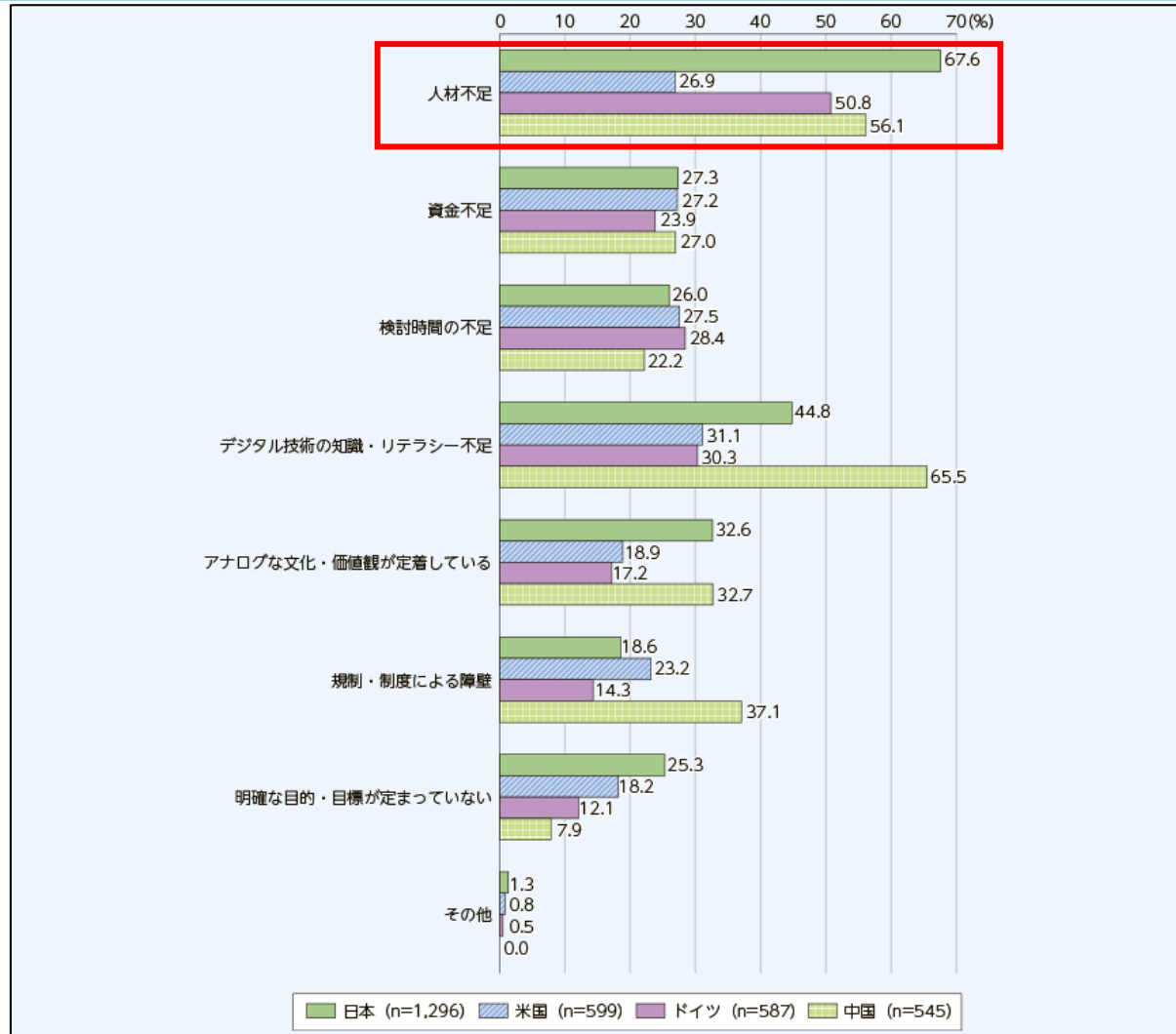


＜参考＞ 経済産業省における
DXの定義【経済産業省「デジタルトランスフォーメーションを推進するためのガイドライン」（DX推進ガイドライン）より】

「企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること」

DXを推進する上での課題として最も多くを占めるのが人材不足

- デジタル化を進める上での課題・障壁として、「人材不足（67.6%）」を理由とする日本企業が諸外国企業に比して非常に多い。（調査対象：約1,300社）



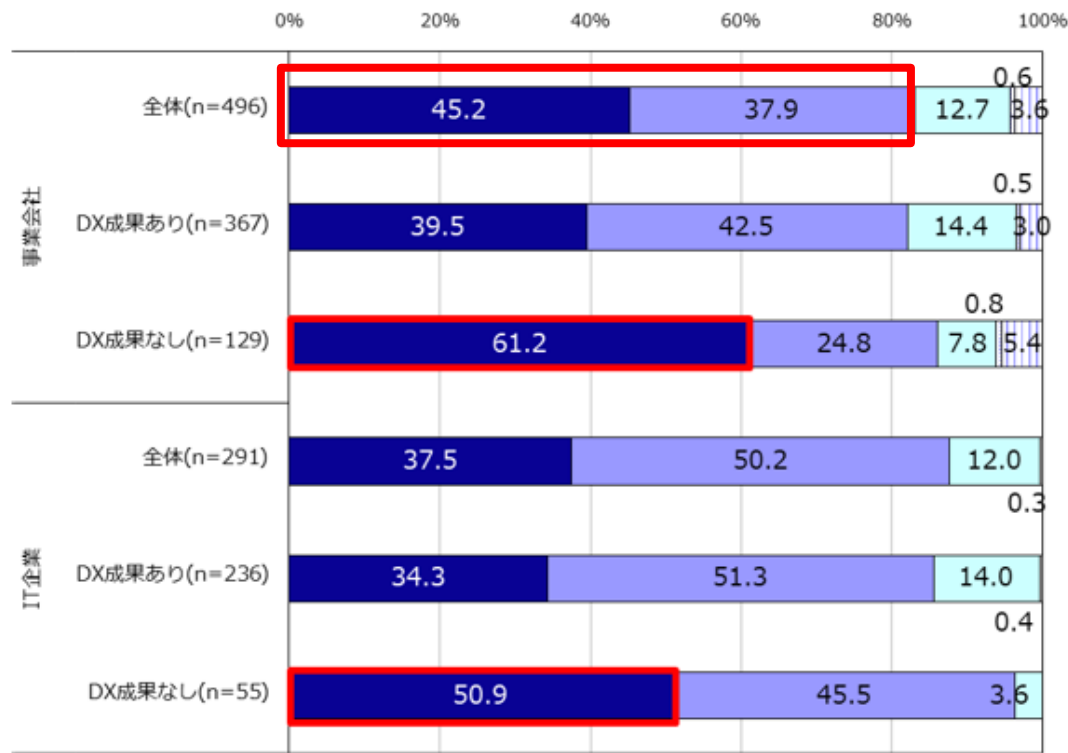
デジタル化を進める上での課題や障壁（国別）

出典) 総務省 情報通信白書
「国内外における最新の情報通信技術の研究開発及びデジタル活用の動向に関する調査研究」
<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r04/html/nf308000.html>

DX成果有無別 IT人材の「量」・「質」の不足感

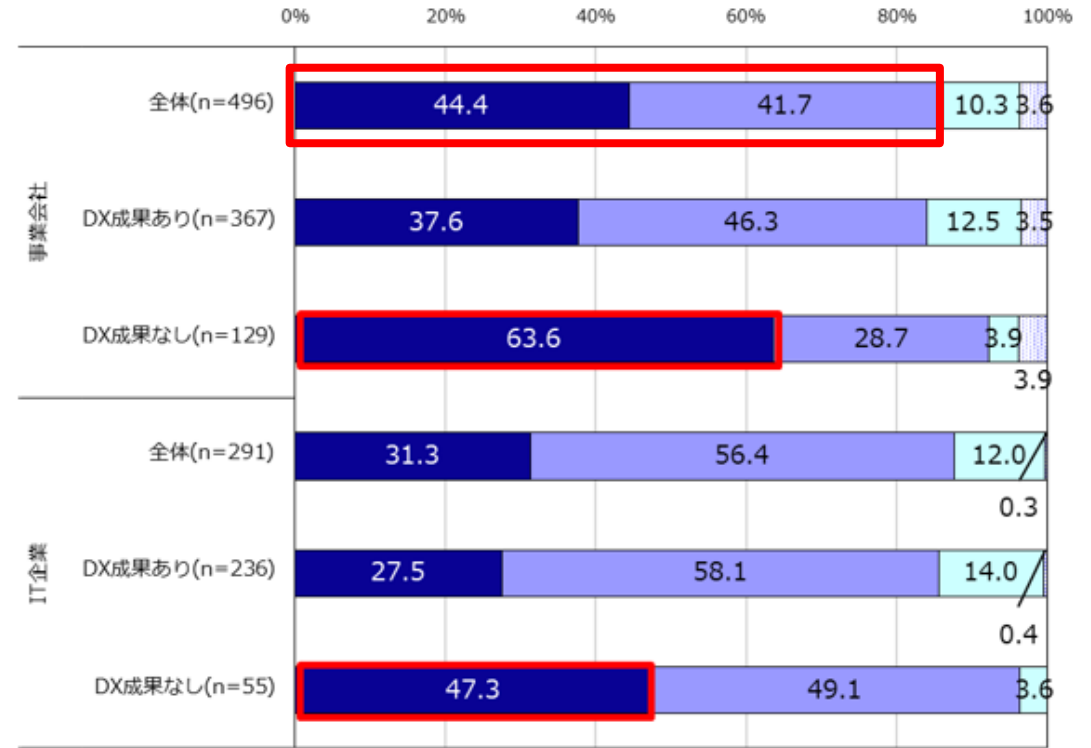
- 事業会社、IT企業ともにIT人材は、8割の企業が不足しているとの回答。
- 2021年度(左)、2022年度(右)共に変わっていない。

IT人材の「量」の過不足感【DX成果有無別】



■ 大幅に不足している ■ やや不足している
■ 特に過不足はない ■ 一部に過剰がある (削減や職種転換等が必要)
■ 分からない

IT人材の「質」の過不足感【DX成果有無別】



■ 大幅に不足している ■ やや不足している ■ 特に過不足はない ■ 分からない

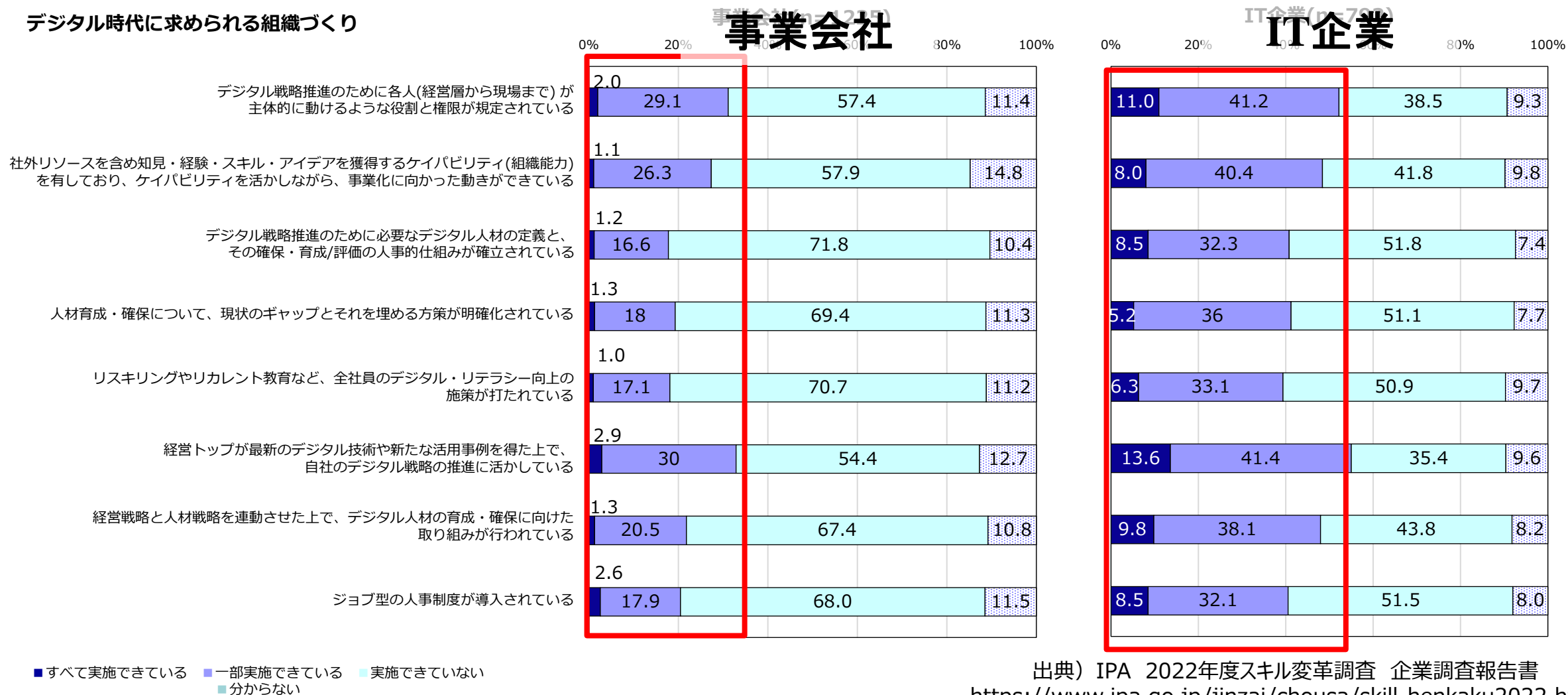
出典) IPA 2022年度スキル変革調査 企業調査報告書

<https://www.ipa.go.jp/jinzai/chousa/skill-henkaku2022.html>

組織づくり・人材・企業文化に関する状況と取り組み

- デジタル時代に求められる組織づくりに関する設問において、IT企業は事業会社と比較して、全ての選択肢で実施できていると回答した企業が多い。

デジタル時代に求められる組織づくり

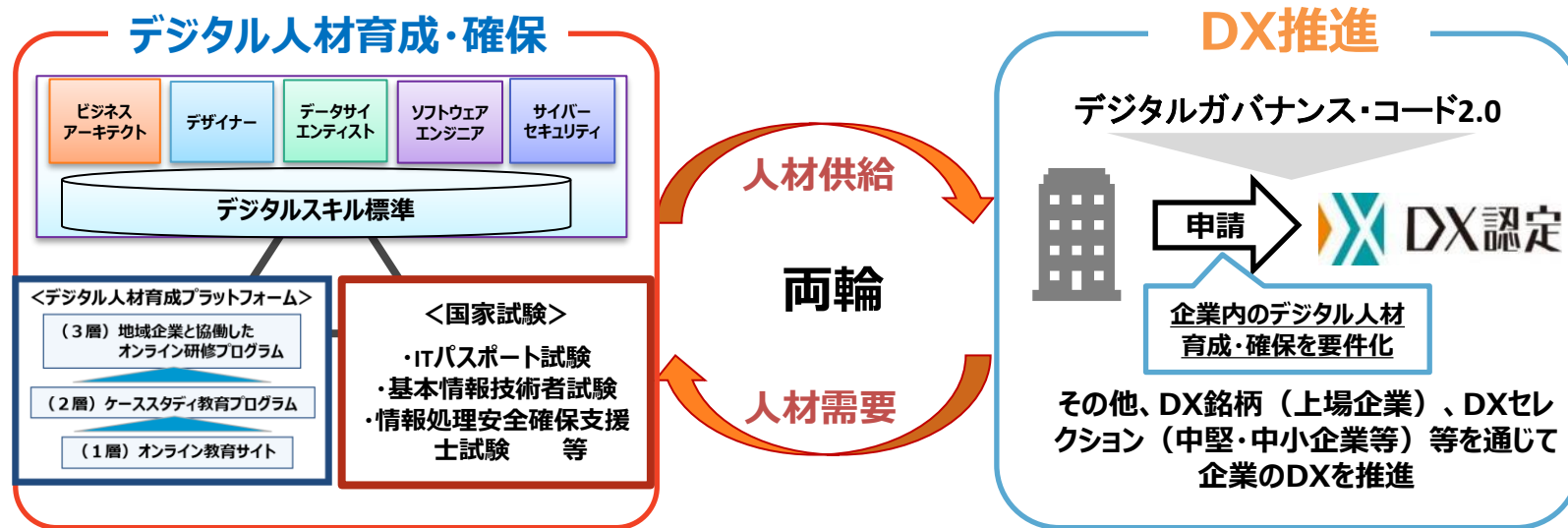


出典) IPA 2022年度スキル変革調査 企業調査報告書

<https://www.ipa.go.jp/jinzai/chousa/skill-henkaku2022.html>

「企業のDX推進」と「デジタル人材育成」を両輪で推進

- 産業全体の競争力強化や社会の課題解決を図るために、「企業のDX推進」と「デジタル人材の育成」を両輪で推進していくことが重要。
- デジタル人材育成の具体的な取り組みとして、以下を実施。
 - デジタルスキル標準の策定によるデジタルスキルや能力の見える化
 - デジタル人材育成プラットフォームにおける実践的な学びの場を提供
 - 情報処理技術者試験による、ITリテラシー・専門IT人材の知識・技能の客観的な評価
 - DX認定を通じた、デジタルを活用した経営変革とそれを担うデジタル人材育成の促進
- これにより、政府全体のデジタル人材育成目標の達成にも貢献していく。

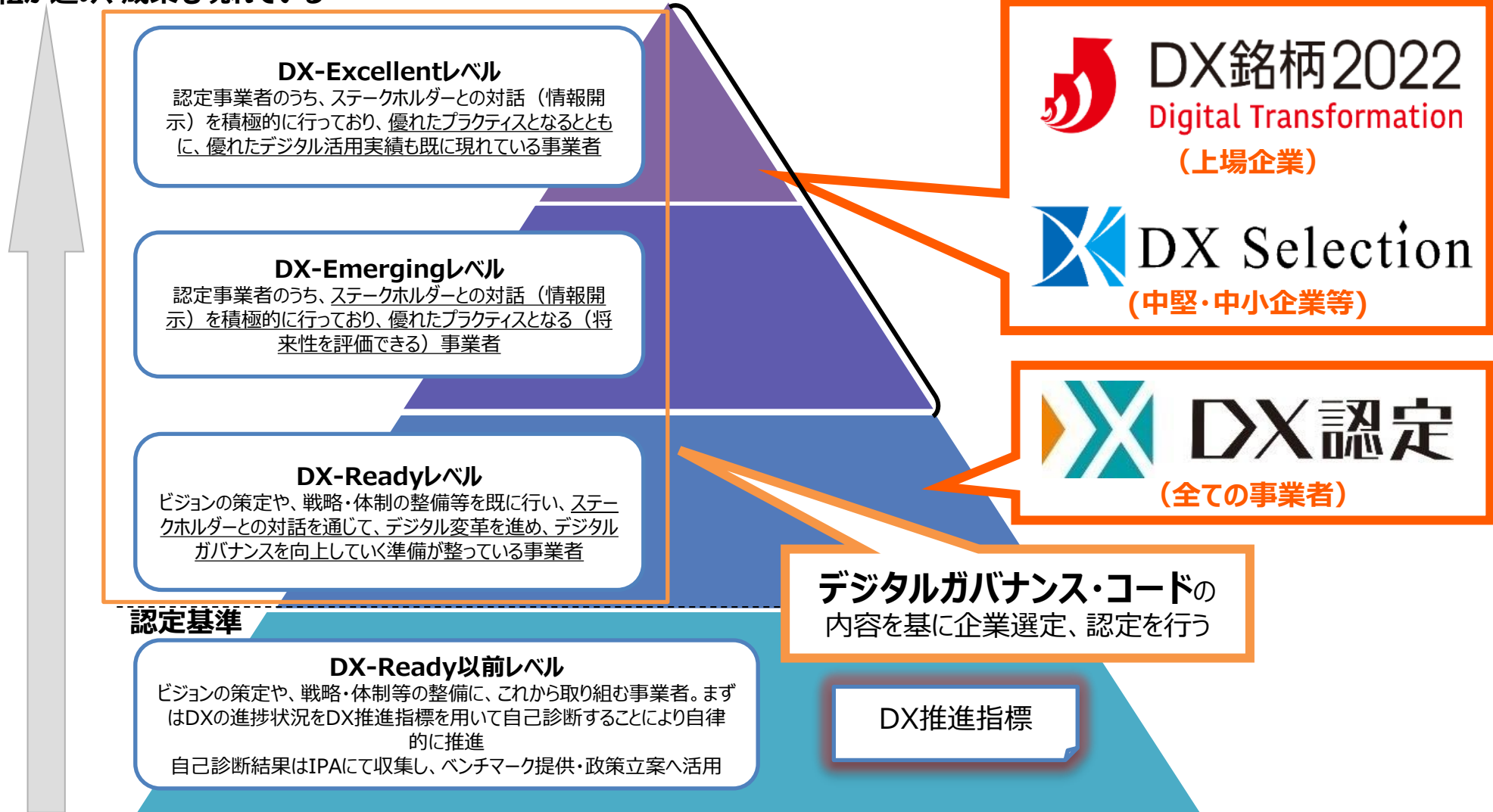


出典) 2023/2/9開催「デジタルスキル標準」紹介ウェビナー」経済産業省 情報処理利用促進課 内田課長説明資料

DX推進の施策体系

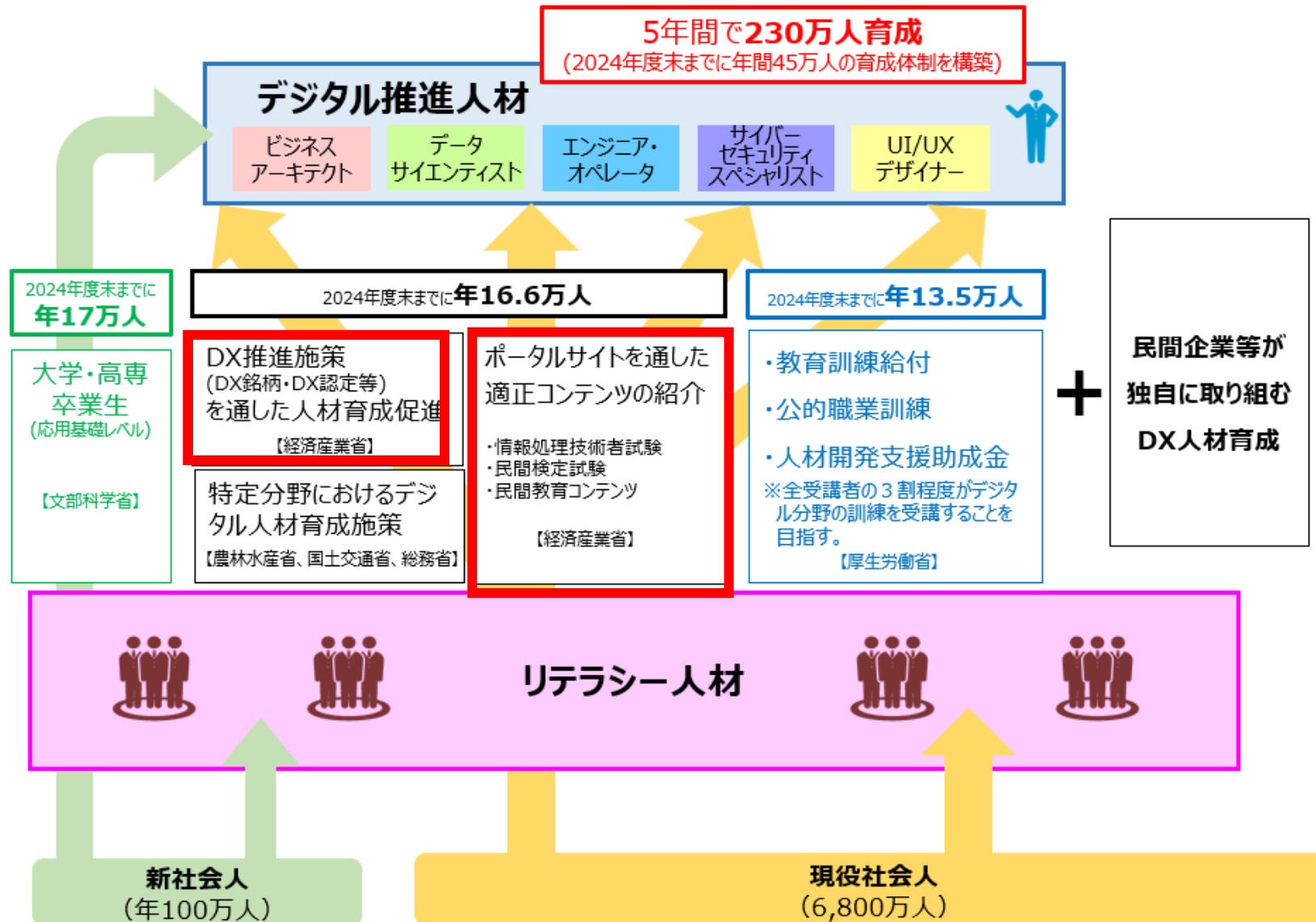
- 企業のDXレベルに合わせて、企業認定や優良企業戦選定などの施策を提供

DXの取組が進み、成果も現れている



未だDXに取り組めていない

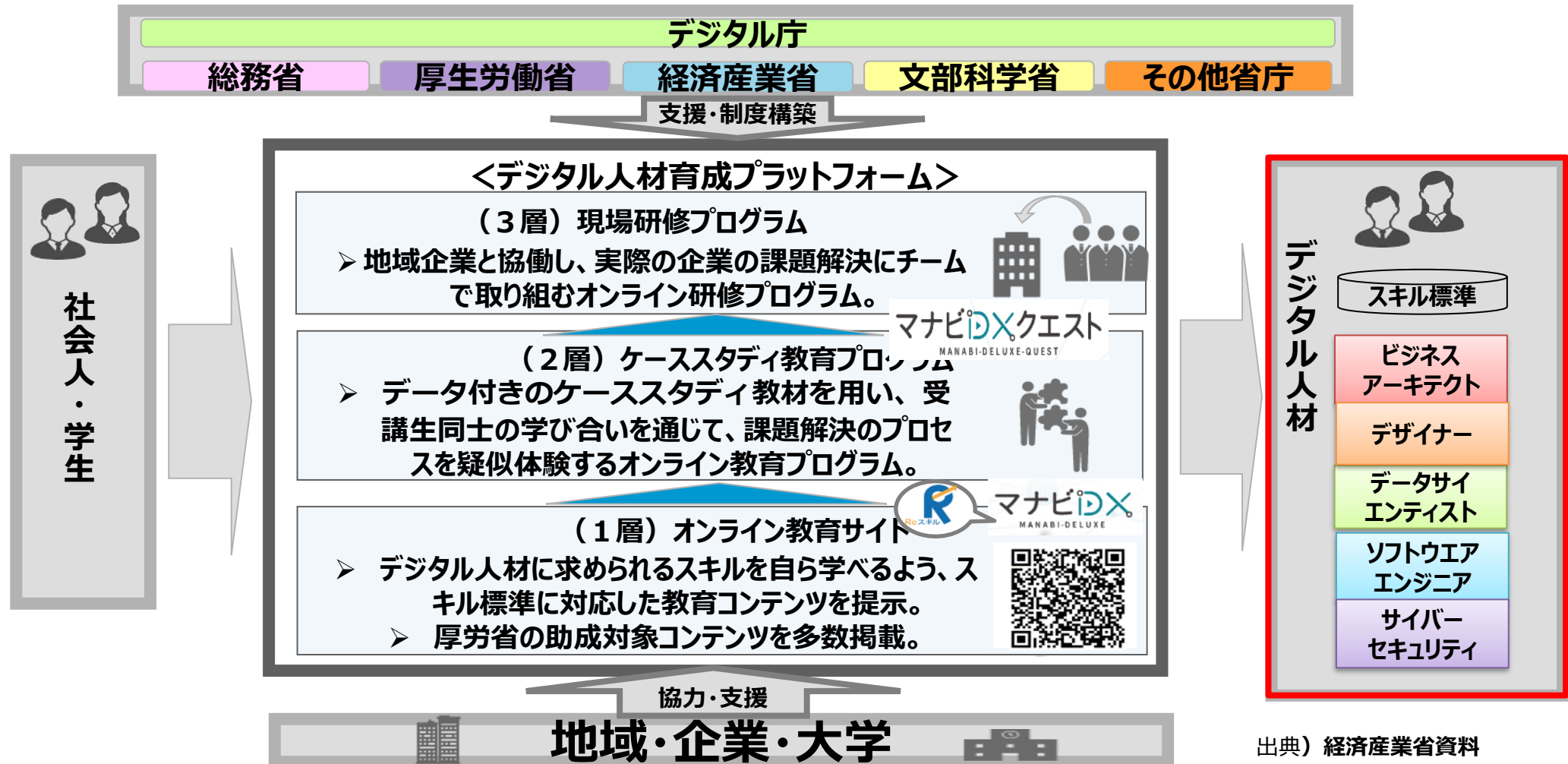
デジタル人材の育成目標の実現に向けて（デジタル田園都市国家構想）



出典) 第2回デジタル田園都市国家構想実現会議若宮大臣提出資料1-2「デジタル田園都市国家構想関連施策の全体像」p.9をもとに経済産業省にて作成
https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/digital_denen/dai2/siryou1-

デジタル人材育成プラットフォーム

- デジタル田園都市国家構想の実現に向け、地域企業のDXを加速するために必要なデジタル人材を育成するプラットフォームを構築し、企業内人材（特にユーザー企業）のリスキルを推進。
- 最大の特徴は、教育コンテンツの集約・提示に加えて、民間市場には存在しないケーススタディ教育プログラムや地域企業と協働したオンライン検収プログラムを提供し、DXを推進する実践人材を一気通貫で育成。



出典) 経済産業省資料

目次

I. デジタルスキル標準の概要

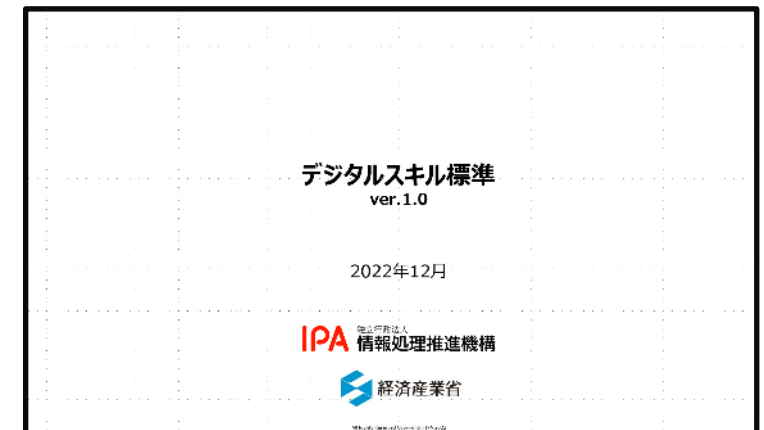
- デジタルスキル標準策定の背景、ねらい
- デジタルスキル標準の構成
- デジタルスキル標準で対象とする人材
- デジタルスキル標準の汎用性
- デジタルスキル標準の活用イメージ

II. DXリテラシー標準

1. DXリテラシー標準策定のねらい、策定方針
2. DXリテラシー標準の構成
3. スキル・学習項目
 - a. 概要
 - b. 詳細
4. DXリテラシー標準の活用イメージ

III. DX推進スキル標準

1. DX推進スキル標準策定のねらい、策定方針
2. DX推進スキル標準の構成
3. 人材類型・ロール
(類型定義、各ロールの担う責任・業務、各ロールの必要スキル)
 - a. ビジネスアーキテクト
 - b. デザイナー
 - c. データサイエンティスト
 - d. ソフトウェアエンジニア
 - e. サイバーセキュリティ
4. 共通スキルリスト解説
5. DX推進スキル標準の活用イメージ



I. デジタルスキル標準の概要

デジタルスキル標準策定の背景・ねらい

日本企業におけるDX推進の重要性の高まり

- データ活用やデジタル技術の進化により、我が国や諸外国において、データ・デジタル技術を活用した産業構造の変化が起きつつある。このような変化の中で企業が競争上の優位性を確立するためには、常に変化する社会や顧客の課題を捉え、デジタルトランスフォーメーション（DX^{脚注}）を実現することが重要。
- 一方で、多くの日本企業は、DXの取組みにおくれをとっていると考えられる。その大きな要因のひとつとして、DXの素養や専門性を持った人材が不足していることが挙げられる。

DX推進における人材の重要性

- 企業がDXを実現するには、企業全体として変革への受容性を高める必要がある。そのためには、経営層を含め企業に所属する一人ひとりがDXの素養を持っている状態、すなわちDXに理解・関心を持ち自分事としてとらえている状態を実現する必要がある。また、変革への受容性を高めたうえで、実際に企業がDX戦略を推進するには、関連する専門性をもった人材が活躍することが重要である。
- このため、全員がDX推進を自分事ととらえ、企業全体として変革への受容性を高めるために、全てのビジネスパーソンにDXに関するリテラシーを身につける必要がある。また、DXを具体的に推進するために、専門性を持った人材の確保・育成が必要である。

デジタルスキル標準の策定

- 上記のようなDX推進における人材の重要性を踏まえ、個人の学習や企業の人材確保・育成の指針であるデジタルスキル標準を策定する。
- デジタルスキル標準は、ビジネスパーソン全体がDXに関する基礎的な知識やスキル・マインドを身につけるための指針である「DXリテラシー標準」及び企業がDXを推進する専門性を持った人材を確保・育成するための指針である「DX推進スキル標準」の2種類で構成されている。
 - ✓ DXリテラシー標準：全てのビジネスパーソンが身につけるべき能力・スキルの標準
 - ✓ DX推進スキル標準：DXを推進する人材の役割や習得すべきスキルの標準
- デジタルスキル標準で扱う知識やスキルは、共通的な指標として転用がしやすく、かつ内容理解において特定の産業や職種に関する知識を問わないことを狙い、可能な限り汎用性を持たせた表現としている。そのため、個々の企業・組織への適用にあたっては、各企業・組織の属する産業や自らの事業の方向性に合わせた具体化が求められることに留意する必要がある。
- なお、デジタルスキル標準は、関係省庁との連携の下で、様々な民間プレイヤーの関与を得ながら普及・活用に向けて取り組むとともに、ユーザーのフィードバックを得ながら、継続的な見直しを行っていく。

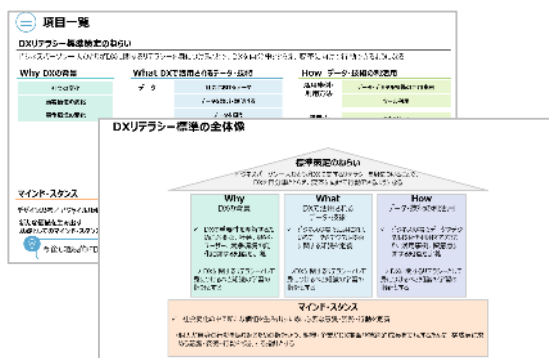
脚注 DXの定義：企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること（経済産業省「デジタルガバナンス・コード2.0」（2022年9月改訂））

デジタルスキル標準の構成

- デジタルスキル標準は「DXリテラシー標準」と「DX推進スキル標準」の2つの標準で構成され、前者はすべてのビジネスパーソンに向けた指針及びそれに応じた学習項目例を定義し、後者は DXを推進する人材の役割（ロール）及び必要なスキルを定義している。

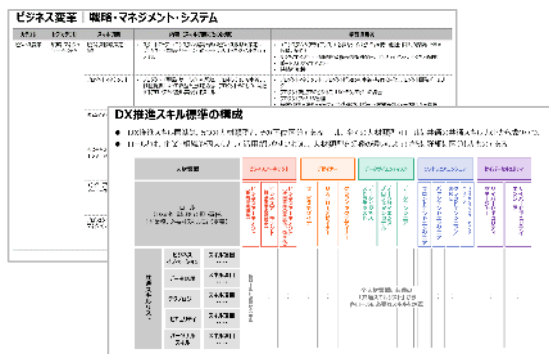
デジタルスキル標準

DXリテラシー標準



- 以下の指針及び、それぞれの指針において学習が期待される項目（学習項目例）を定義している。
 - DXに関するリテラシーとして身につけるべき知識の学習の指針
 - 個人が自身の行動を振り返るための指針かつ、組織・企業が構成員に求める意識・姿勢・行動を検討する指針

DX推進スキル標準



- DX推進に必要な人材類型（ビジネスアーキテクト/デザイナー/データサイエンティスト/ソフトウェアエンジニア/サイバーセキュリティ）について類型ごとに、ロール及び必要なスキルを定義している。

デジタルスキル標準で対象とする人材

- デジタルスキル標準で対象とする人材は、**デジタル技術を活用して競争力を向上させる企業等に所属する人材を想定**している。
- このうち、「DXリテラシー標準」は全てのビジネスパーソンを対象としており、「DX推進スキル標準」は企業・組織において専門性を持ってDXの取組みを推進する人材（DXを推進する人材）を対象としている。

全てのビジネスパーソン（経営層含む）

<DXリテラシー標準>

全てのビジネスパーソンが身につけるべき
能力・スキルを定義

DXを推進する人材

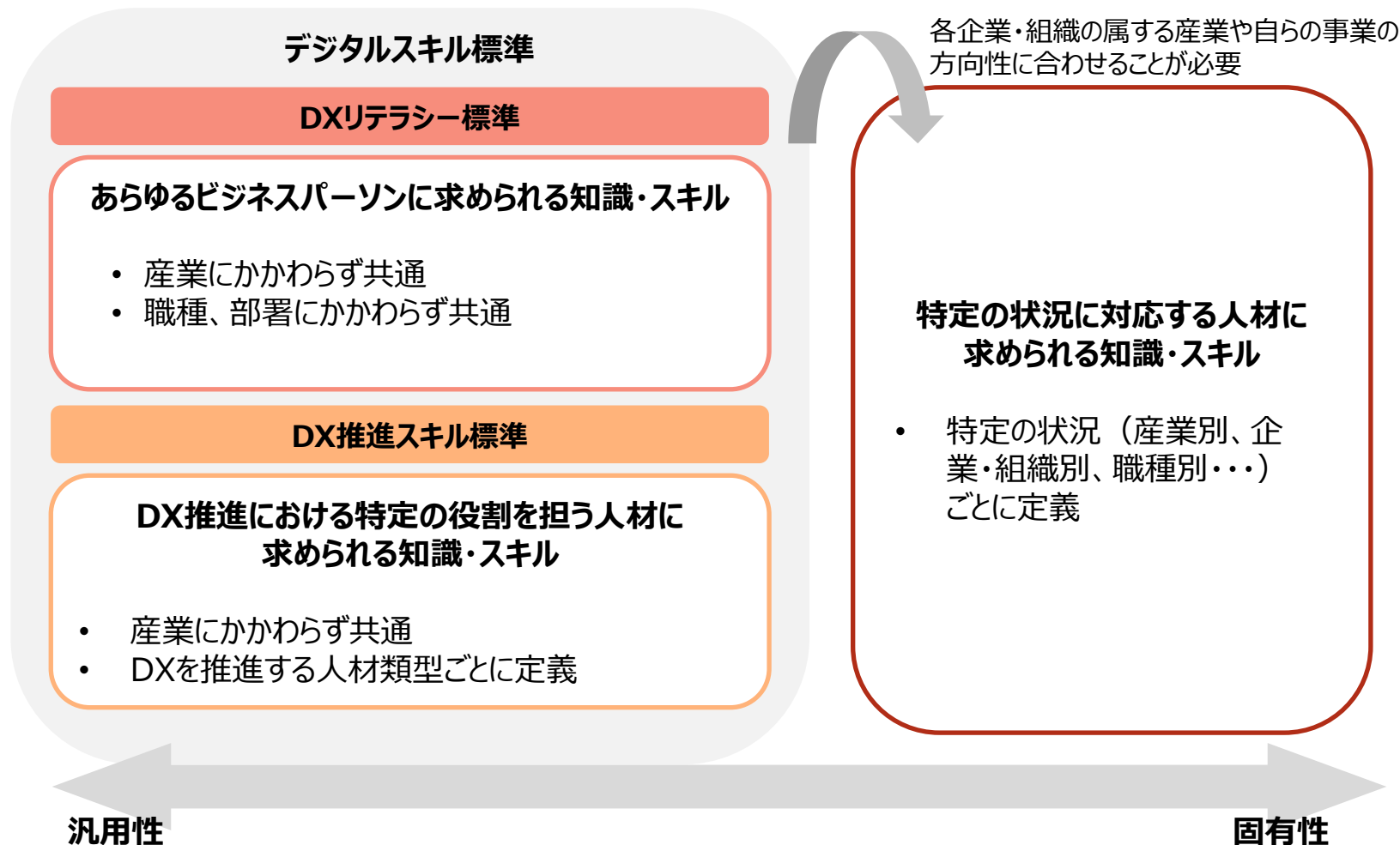
<DX推進スキル標準>

DXを推進する人材タイプの役割や
習得すべきスキルを定義

（
ビジネスアーキテクト／デザイナー／
データサイエンティスト／ソフトウェアエンジニア／
サイバーセキュリティ
）

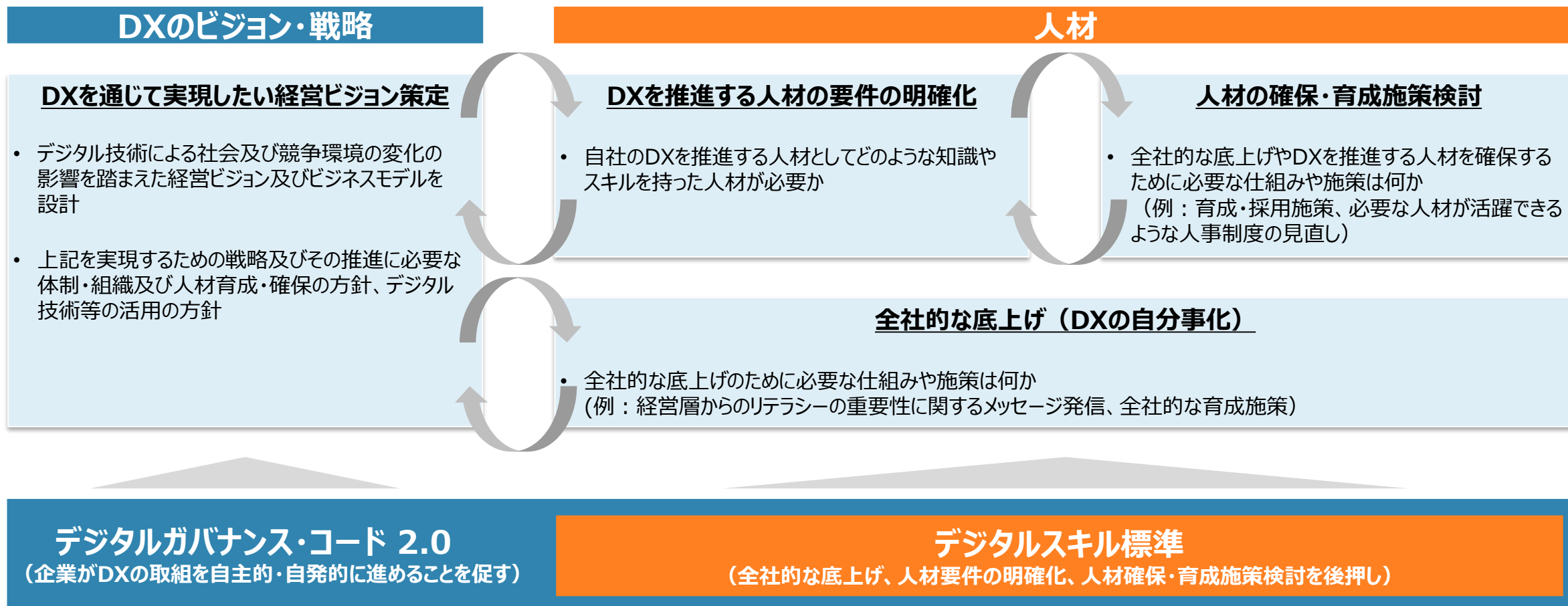
デジタルスキル標準の汎用性

- デジタルスキル標準で扱う知識やスキルは、共通的な指標として転用がしやすく、かつ内容理解において特定の産業や職種に関する知識を問わないことを狙い、可能な限り汎用性を持たせた表現としている。
- そのため、個々の企業・組織への適用にあたっては、各企業・組織の属する産業や自らの事業の方向性に合わせる必要がある。



デジタルスキル標準の活用イメージ

- 企業がDXを推進するためには、全社的なDXの方向性を基に人材確保・育成の取組みを実行し、それを通して実現できたことを踏まえ方向性を見直していくような循環が必要。その中で、デジタルスキル標準は人材確保・育成の取組みの実行を後押しする。
- なお、DX推進スキル標準に示されているDX推進に必要な役割は、企業がこれら全てを最初から揃えることは必須でなく、事業規模やDXの推進度合に応じて一部の役割から揃えていくことが想定される



II. DXリテラシー標準

DXリテラシー標準の必要性



環境変化やDXが推進される世の中で、ビジネスパーソン一人ひとりが、よりよい職業生活を送るためには、従来の「社会人の常識」とは異なるものも含む知識やスキルの学びの指針が必要

社会の変化

持続可能な成長のための取組みの重要性が認知され（SDGsへの関心の高まり、ESG投資 等）様々な社会課題を解決することの価値が高まっている

デジタル技術の進化・ データ活用の進展

デジタル技術の進化により、様々なデータや技術を通じて、ビジネスパーソンの活動の可能性が広がり、同時に社会・顧客価値・競争環境の変化を加速させている

顧客価値の変化

品質がいいだけでなく、付加価値の高さや、個人個人の嗜好に合っているものが求められるようになっている

競争環境の変化

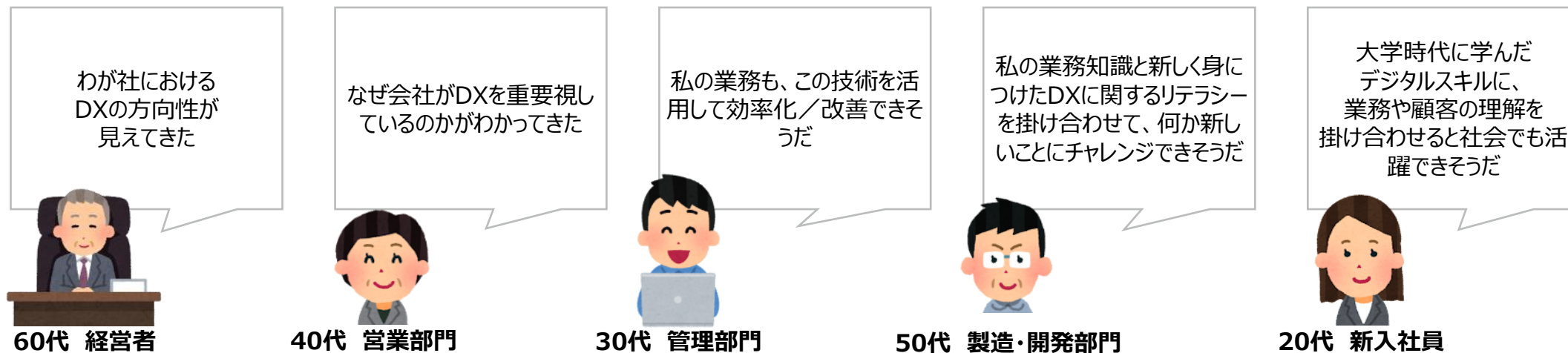
デジタルの活用で異業種からの参入、国境を越えたビジネスが盛んになるなど、従来のビジネスに存在した様々な垣根が取り払われつつある

DXリテラシー標準策定のねらい

DXリテラシー標準策定のねらい

ビジネスパーソン一人ひとりがDXに関するリテラシーを身につけることで、DXを自分事ととらえ、変革に向けて行動できるようになる

DXに関するリテラシーを身につけた人材イメージ

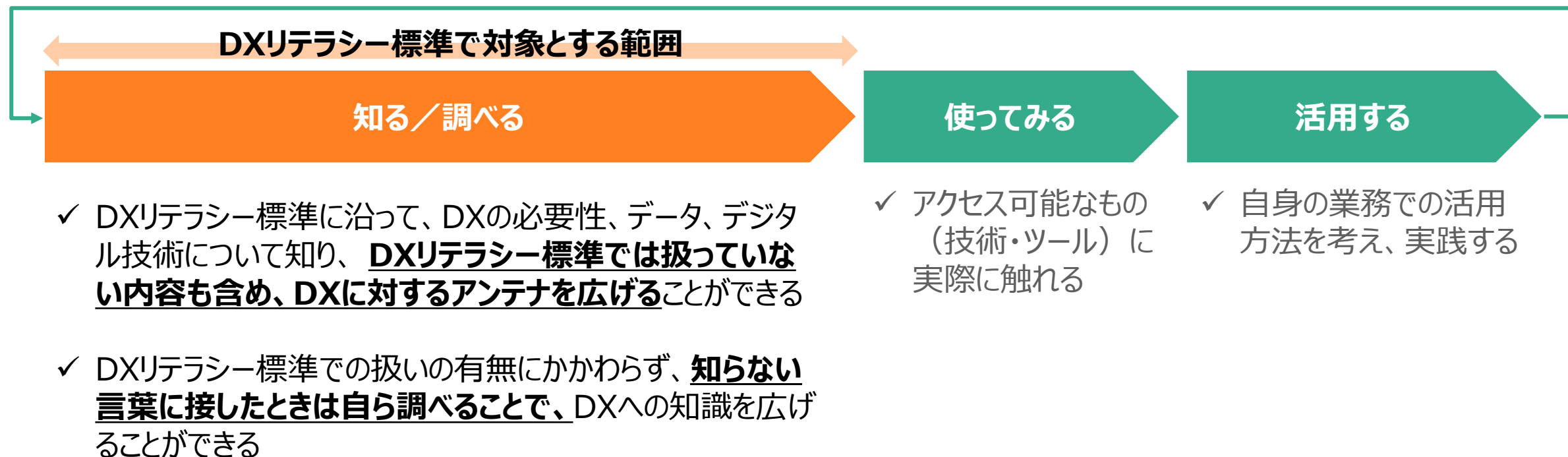


- ✓ 社会環境・ビジネス環境の変化に対応すべく、企業・組織を中心に社会全体のDXが加速している。
- ✓ その中で、人生100年時代を生き抜くためには、組織・年代・職種を問わず、ビジネスパーソン一人ひとりが自身の責任で学び続けることが重要となる。
- ✓ 「DXリテラシー標準」は、ビジネスパーソン一人ひとりがDXに参画し、その成果を仕事や生活で役立てるうえで必要となるマインド・スタンスや知識・スキルを示す、学びの指針とする。

DXリテラシー標準に沿った学びによる効果（個人）



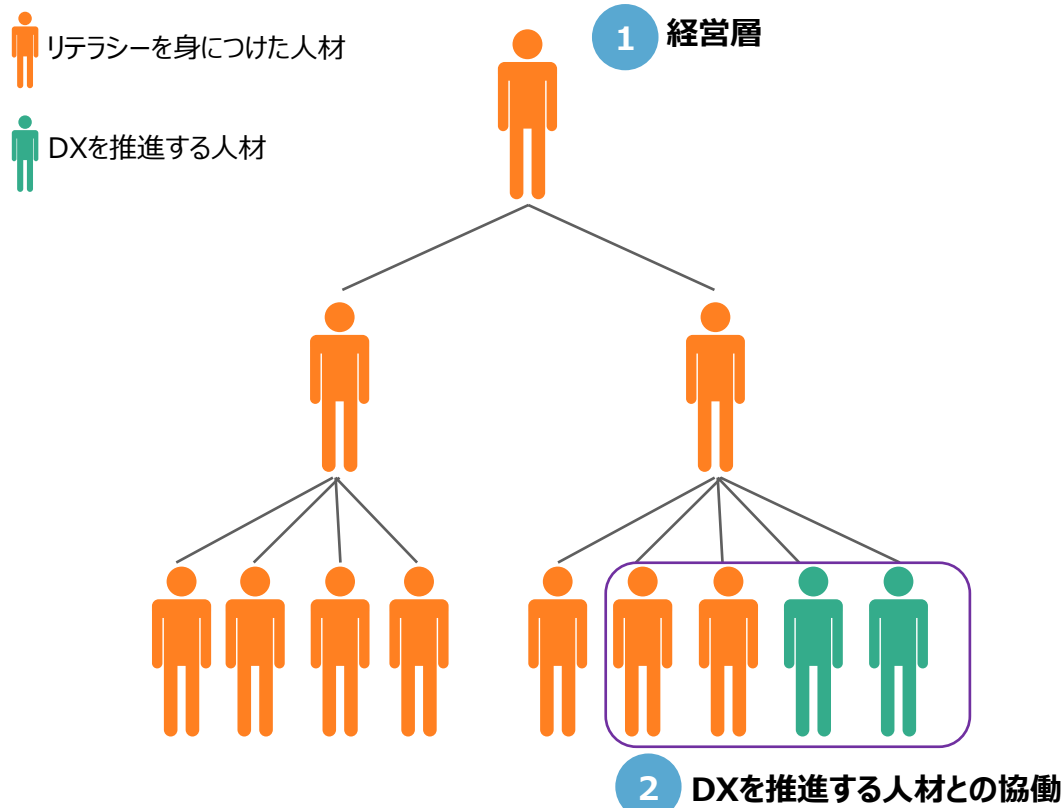
- ✓ DXリテラシー標準に沿って学ぶことで、世の中で起きているDXや最新の技術へのアンテナを広げることができる。アンテナを広げることによって、DXリテラシー標準の内容を身につけることにとどまらず、日々生まれている新たな関連項目・キーワードにも興味を向けることができる。
- ✓ DXリテラシー標準の内容を起点として、日々生まれる新たな技術・言葉（バズワードと呼ばれるものも含め）の内容や意味を自ら調べる姿勢が求められる。



DXリテラシー標準に沿った学びによる効果（企業・組織）



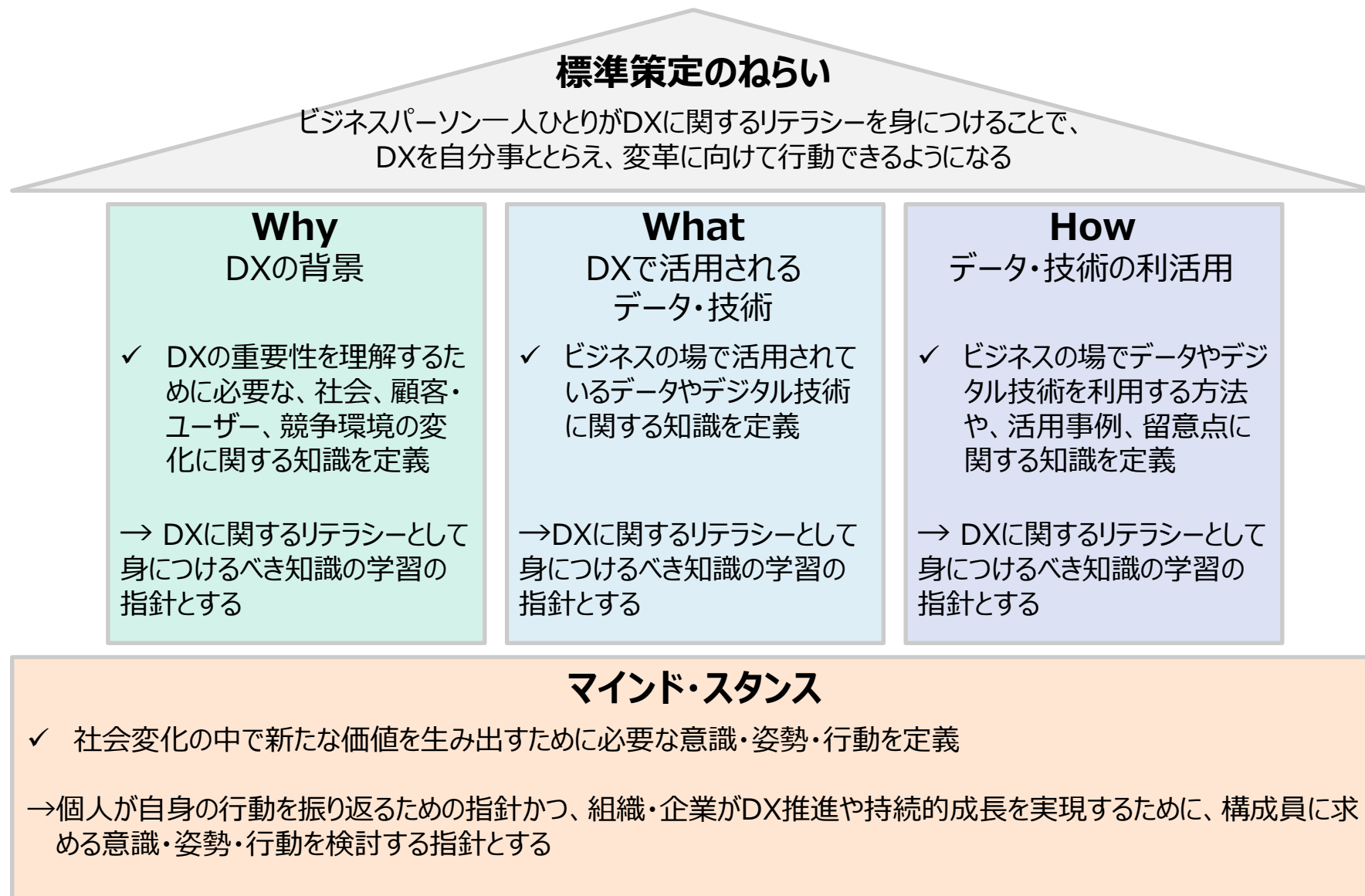
✓ DXに関するリテラシーを身につけ、DXへのアンテナを広げた人材が増えることで、DXを加速することができる。



3 組織全体でのDXへの取組み

- 1 **経営層**が、社会やビジネス環境の変化において有益な技術・考え方を知ることによって、自社としてのDXの方向性を思案し、社員に示すことができるようになる。
- 2 **事業内容そのものや業務について知見のある人材**がリテラシーを身につけてDXへのアンテナを広げることで、企業・組織におけるDXの可能性の発掘や、DXに関する専門性が高い人材（DXを推進する人材）との協働が進み、企業としてのDXが進みやすくなる。
- 3 様々な**組織・年代・階層・職種**の人材がDXに関するリテラシーを身につけることで、企業・組織のDX推進に伴って組織内で起きる変化への受容性が高まる。

DXリテラシー標準の全体像



項目一覧

DXリテラシー標準策定のねらい

ビジネスパーソン一人ひとりがDXに関するリテラシーを身につけることで、DXを自分事にとらえ、変革に向けて行動できるようになる

Why DXの背景

社会の変化
顧客価値の変化
競争環境の変化

What DXで活用されるデータ・技術

データ	社会におけるデータ
	データを読む・説明する
	データを扱う
	データによって判断する
デジタル技術	AI
	クラウド
	ハードウェア・ソフトウェア
	ネットワーク

How データ・技術の利活用

活用事例・ 利用方法	データ・デジタル技術の活用事例
	ツール利用
留意点	セキュリティ
	モラル
	コンプライアンス

マインド・スタンス

デザイン思考／アジャイルな働き方

顧客・ユーザーへの共感

常識にとらわれない発想

反復的なアプローチ

新たな価値を生み出す
基礎としてのマインド・スタンス

変化への適応

コラボレーション

柔軟な意思決定

事実に基づく判断



今後も継続的にDXの在り方の変化を捉え必要な改訂を行う。

項目の内容・学習項目例 - マインド・スタンス

学習のゴール

社会変化の中で新たな価値を生み出すために必要なマインド・スタンスを知り、自身の行動を振り返ることができる

項目	内容	学習項目例
変化への適応	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 環境や仕事・働き方の変化を受け入れ、適応するために自ら主体的に学んでいる ✓ 自身や組織が持つ既存の価値観の尊重すべき点を認識しつつ、環境変化に応じた新たな価値観、行動様式、知識、スキルを身につけている 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 各自が置かれた環境において目指すべき具体的な行動や影響例 <p style="text-align: right;">等</p>
コラボレーション	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 価値創造のためには、様々な専門性を持った人と社内・社外問わずに協働することが重要であることを理解し、多様性を尊重している 	
顧客・ユーザーへの共感	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 顧客・ユーザーに寄り添い、顧客・ユーザーの立場に立ってニーズや課題を発見しようとしている 	
常識にとらわれない発想	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 顧客・ユーザーのニーズや課題に対応するためのアイデアを、既存の概念・価値観にとらわれずに考えている ✓ 従来の物事の進め方の理由を自ら問い、より良い進め方がないか考えている 	
反復的なアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 新しい取り組みや改善を、失敗を許容できる範囲の小さいサイクルで行い、顧客・ユーザーのフィードバックを得て反復的に改善している ✓ 失敗したとしてもその都度軌道修正し、学びを得ることができれば「成果」であると認識している 	
柔軟な意思決定	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 既存の価値観に基づく判断が難しい状況においても、価値創造に向けて必要であれば、臨機応変に意思決定を行っている 	
事実に基づく判断	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 勘や経験のみではなく、客観的な事実やデータに基づいて、物事を見たり、判断したりしている 	

マインド・スタンス - 変化への適応

内容

- 環境や仕事・働き方の変化を受け入れ、適応するために自ら主体的に学んでいる
- 自身や組織が持つ既存の価値観の尊重すべき点を認識しつつ、環境変化に応じた新たな価値観、行動様式、知識、スキルを身につけている

説明

- DXの背景に存在する社会や産業の変化、あるいはDXに伴う組織、仕事の進め方等の変化に適応していくためには、所属組織などが提供する研修等を受けるだけでなく、能動的に新たな知識を得るために行動する必要がある。
- 社会や産業が変化する中で、変化に適応して業務を遂行したり判断するためには、これまでの社会人経験の中で身につけた知識・スキルや、培ってきた経験則が古くなっていないか振り返る必要がある。

～行動例～

【主体的な学び】

- 新興の技術に関する書籍・新聞記事を読む
- 個人で登録可能なeラーニングサービスを利用し、業務・業界に関わる知識を得る
- 自社の属する業界や自身がかかわる業務領域に関する勉強会に自発的に参加する

【新たな価値観、行動様式、知識、スキルの習得】

- 自身のデスクトップ上でデータ管理を行っていたが、同時編集できるクラウドツールが提供されたため、クラウド上で同時編集すべきデータを見極めて、クラウドにデータを移行した
- 情報はメールでやり取りをし、必要な人にCcを付けて共有していたが、コミュニケーションツール上でグループを作り、グループに情報が集約されるようにした

項目の内容・学習項目例 - Why

学習のゴール

人々が重視する価値や社会・経済の環境がどのように変化しているか知っており、DXの重要性を理解している

項目	内容	学習項目例
社会の変化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 世界や日本社会におきている変化を理解し、変化の中で人々の暮らしをよりよくし、社会課題を解決するためにデータやデジタル技術の活用が有用であることを知っている 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ メガトレンド・社会課題とデジタルによる解決（SDGs 等） ✓ 日本と海外におけるDXの取組みの差 ✓ 社会・産業の変化に関するキーワード（Society5.0、データ駆動型社会等）
顧客価値の変化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 顧客価値の概念を理解し、顧客・ユーザーがデジタル技術の発展によりどのように変わってきたか（情報や製品・サービスへのアクセスの多様化、人それぞれのニーズを満たすことへの欲求の高まり）を知っている 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 顧客・ユーザーの行動変化と変化への対応 ✓ 顧客・ユーザーを取り巻くデジタルサービス
競争環境の変化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ データ・デジタル技術の進展や、社会・顧客の変化によって、既存ビジネスにおける競争力の源泉が変わったり、従来の業種や国境の垣根を超えたビジネスが広がったりしていることを知っている 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ デジタル技術の活用による競争環境変化の具体的事例

Why - 顧客価値の変化

内容

- 顧客価値の概念を正しく理解し、顧客・ユーザーがデジタル技術の発展によりどのように変わってきたか（情報や製品・サービスへのアクセスの多様化、人それぞれのニーズを満たすことへの欲求の高まり）を知っている

説明

- デジタル技術の発展により、顧客・ユーザー（個人だけでなく企業も含め）は過去よりも様々な情報に容易にアクセスできるようになっている。そのため、なるべく多くの顧客・ユーザーに最適化されたものではなく、自身にとって最適なものへの欲求がより高まっていることを理解する必要がある。
- 個人レベルでは、デジタル技術を活用したサービス（eコマース、動画・音楽配信、タクシー配車アプリ、デリバリーサービス、電子書籍 等）の活用が進む中で、企業が新たな価値を提供するためには、デジタル技術を活用したサービスの提供や自社がユーザーとして既存のサービスを活用することが求められていることを理解する必要がある。

～学習項目例～

- 顧客・ユーザーの行動変化と変化への対応
 - ✓ 購買行動の変化
 - ✓ 変化に対応した広告手法：レコメンド、SEO、リスティング広告、インフルエンサー、OMO（Online Merges with Offline）、LBM（Location Based Marketing）
 - ✓ データ・デジタル技術を活用した顧客・ユーザー行動の分析事例
- 顧客・ユーザーを取り巻くデジタルサービス
 - ✓ eコマース
 - ✓ 動画・音楽配信
 - ✓ タクシー配車アプリ
 - ✓ デリバリーサービス
 - ✓ 電子書籍
 - ✓ インターネットバンキング 等

項目の内容・学習項目例 - What (1/2)

学習のゴール

DX推進の手段としてのデータやデジタル技術に関する最新の情報を知ったうえで、その発展の背景への知識を深めることができる

項目	内容	学習項目例
データ 社会におけるデータ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「データ」には数値だけでなく、文字・画像・音声等様々な種類があることや、それらがどのように蓄積され、社会で活用されているか知っている 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ データの種類 ✓ 社会におけるデータ活用 等
データ データを読む・説明する	<ul style="list-style-type: none"> ✓ データの分析手法や結果の読み取り方を理解している ✓ データの分析結果の意味合いを見抜き、分析の目的や受け取り手に応じて、適切に説明する方法を理解している 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ データの分析手法（基礎的な確率・統計の知識） ✓ データを読む（比較方法・重複等） ✓ データを説明する（可視化・分析結果の言語化） 等
データ データを扱う	<ul style="list-style-type: none"> ✓ データ利用には、データ抽出・加工に関する様々な手法やデータベース等の技術が欠かせないことを理解している 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ データの抽出・加工（クレンジング・集計 等） ✓ データの出力 ✓ データベース（データベースの種類、構造 等） 等
データ データによって判断する	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 業務・事業の構造、分析の目的を理解し、データを分析・利用するためのアプローチを知っている ✓ 期待していた結果とは異なる分析結果が出たとしても、それ自体が重要な知見となることを理解している ✓ 分析の結果から、経営や業務に対する改善のアクションを見出し、アクションの結果どうなったかモニタリングする手法を理解している 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ データドリブンな判断プロセス ✓ 分析アプローチ設計 ✓ モニタリングの手法 等

項目の内容・学習項目例 – What (2/2)

学習のゴール

DX推進の手段としてのデータやデジタル技術に関する最新の情報を知ったうえで、その発展の背景への知識を深めることができる

項目	内容	学習項目例
デジタル技術 AI	<ul style="list-style-type: none"> ✓ AIが生まれた背景や、急速に広まった理由を知っている ✓ AIの仕組みを理解し、AIができること、できないことを知っている ✓ AI活用の可能性を理解し、精度を高めるためのポイントを知っている 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ AIの歴史 ✓ AIを作るための手法・技術 ✓ AIの得意分野・限界 ✓ 人間中心のAI社会原則 ✓ 最新の技術動向 <p>等</p>
デジタル技術 クラウド	<ul style="list-style-type: none"> ✓ クラウドの仕組みを理解し、クラウドとオンプレミスの違いを知っている ✓ クラウドサービスの提供形態を知っている 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ クラウドの仕組み（データの持ち方、データを守る仕組み） ✓ クラウドサービスの提供形態（SaaS、IaaS、PaaS 等） ✓ 最新の技術動向 <p>等</p>
デジタル技術 ハードウェア・ソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> ✓ コンピュータやスマートフォンなどが動作する仕組みを知っている ✓ 社内システムなどがどのように作られているかを知っている 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ハードウェア（ハードウェアの構成要素、コンピュータの種類） ✓ ソフトウェア（ソフトウェアの種類、プログラミング的思考） ✓ 企業における開発・運用 ✓ 最新の技術動向 <p>等</p>
デジタル技術 ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ネットワークの基礎的な仕組みを知っている ✓ インターネットの仕組みや代表的なインターネットサービスを知っている 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ネットワークの仕組み（LAN・WAN、通信プロトコル） ✓ インターネットサービス（電子メール） ✓ 最新の技術動向 <p>等</p>

What - データによって判断する

内容

- 業務・事業の構造、分析の目的を理解し、データを分析・利用するためのアプローチを知っている
- 期待していた結果とは異なる分析結果が出たとしても、それ自体が重要な知見となることを理解している
- 分析の結果から、経営や業務に対する改善のアクションを見出し、アクションの結果どうなったかモニタリングする手法を理解している

説明

- データを扱う前提としてデータを何に使うのか、どのような結果が出ることが予測されるのか仮説を構築する重要性を知る必要がある。
- 分析の目的を実現するためにふさわしい分析アプローチと中長期的なモニタリング方法を設計する手法を知ることが求められる。

～学習項目例～

- データドリブな判断プロセス
 - ✓ 仮説構築
 - ✓ 仮説の修正
 - ✓ 一次情報を用いたデータの検証
 - ✓ データの信頼性の判断・明示
 - ✓ 分析結果に基づいた意思決定
- 分析アプローチ設計
 - ✓ 必要なデータの確保
 - ✓ 分析対象の構造把握
 - ✓ 業務分析手法
 - ✓ データ・分析手法・可視化の方法の設計
- モニタリングの手法

項目の内容・学習項目例 - How

学習のゴール

データ・デジタル技術の活用事例を理解し、その実現のための基本的なツールの利用方法を身につけたうえで、留意点などを踏まえて実際に業務で利用できる

項目	内容	学習項目例
活用事例・利用方法 データ・デジタル技術の活用事例	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ビジネスにおけるデータ・デジタル技術の活用事例を知っている ✓ データ・デジタル技術が様々な業務で利用できることを理解し、自身の業務への適用場面を想像できる 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 事業活動におけるデータ・デジタル技術の活用事例 等
活用事例・利用方法 ツール利用	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ツールの利用方法に関する知識を持ち、日々の業務において、状況に合わせて適切なツールを選択できる 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ツールの利用方法（コミュニケーションツール、オフィスツール、検索エンジン） ✓ ノーコード・ローコードツールの基礎知識 等
留意点 セキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ セキュリティ技術の仕組みと個人がとるべき対策に関する知識を持ち、安心してデータやデジタル技術を利用できる 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ セキュリティの3要素 ✓ セキュリティ技術 ✓ 個人がとるべきセキュリティ対策 等
留意点 モラル	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 個人がインターネット上で自由に情報のやり取りができる時代において求められるモラルを持ち、インターネット上で適切にコミュニケーションできる ✓ 捏造、改ざん、盗用などのデータ分析における禁止事項を知り、適切にデータを利用できる 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ネット被害・SNS等のトラブルの事例・対策 ✓ データ利用における禁止事項 等
留意点 コンプライアンス	<ul style="list-style-type: none"> ✓ プライバシー、知的財産権、著作権の示すものや、その保護のための法律、諸外国におけるデータ規制等について知っている ✓ 実際の業務でデータや技術を利用するときに、自身の業務が法規制に照らして問題ないか確認できる 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 個人情報の定義と個人情報に関する法律・留意事項 ✓ 著作権・産業財産権・その他の権利が保護する対象 ✓ 諸外国におけるデータ規制 等

How - ツール利用

内容

- ツールの利用方法に関する知識を持ち、日々の業務において、状況に合わせて適切なツールを選択できる

説明

- 組織で行われるDXの取組みや日常の業務において、状況に合わせて適切なツールを選択して利用するためには、各種ツールの利用方法について知ることが求められる。
- 現時点では、どこの企業でも当たり前に使われていないツールに関しても、状況に合わせて適切なツールを選択することができるよう、選択肢として知識を身につけておくことを意図して、ノーコード・ローコードツールについても基礎知識のみ含める。

～学習項目例～

- 各種ツールの利用方法
 - ✓ コミュニケーションツール：メール、チャット、プロジェクト管理
 - ✓ オフィスツール：文字のサイズ・フォント変更、基本的な関数、表の作成、便利なショートカット
 - ✓ 検索エンジン：検索のコツ
- ノーコード・ローコードツールの基礎知識
 - ✓ RPA、AutoMLなどの自動化・内製化ツールの概要

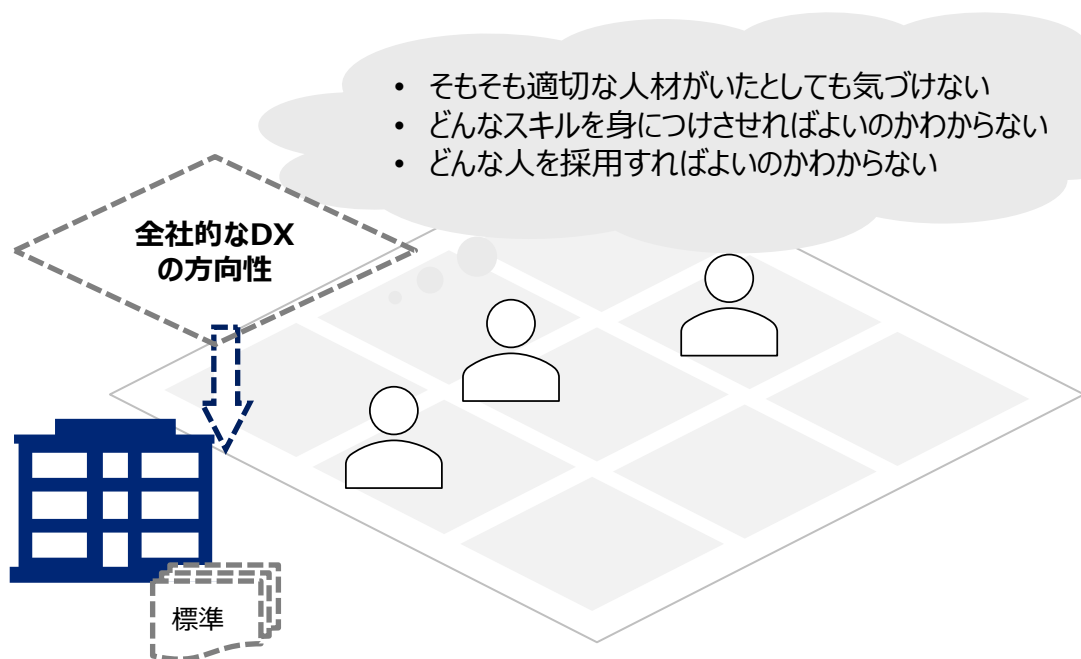
III.DX推進スキル標準

DX推進スキル標準の必要性

- 日本企業がDXを推進する人材を十分に確保できていない背景には、自社のDXの方向性を描くことや、自社にとって必要な人材を把握することの難しさに課題があると考えられる。
- 各社がDXを通じて何をしたいのかというビジョン、その推進に向けた戦略を描いた上で、実現に向けてどのような人材を確保・育成することが必要になるか、適切に設定することが重要であり、「DX推進スキル標準」はそのための参考となる。しかし、スキル標準から戦略を描こうとすることや、スキルを闇雲に身につければDXが進むというものではないことには留意が必要である。

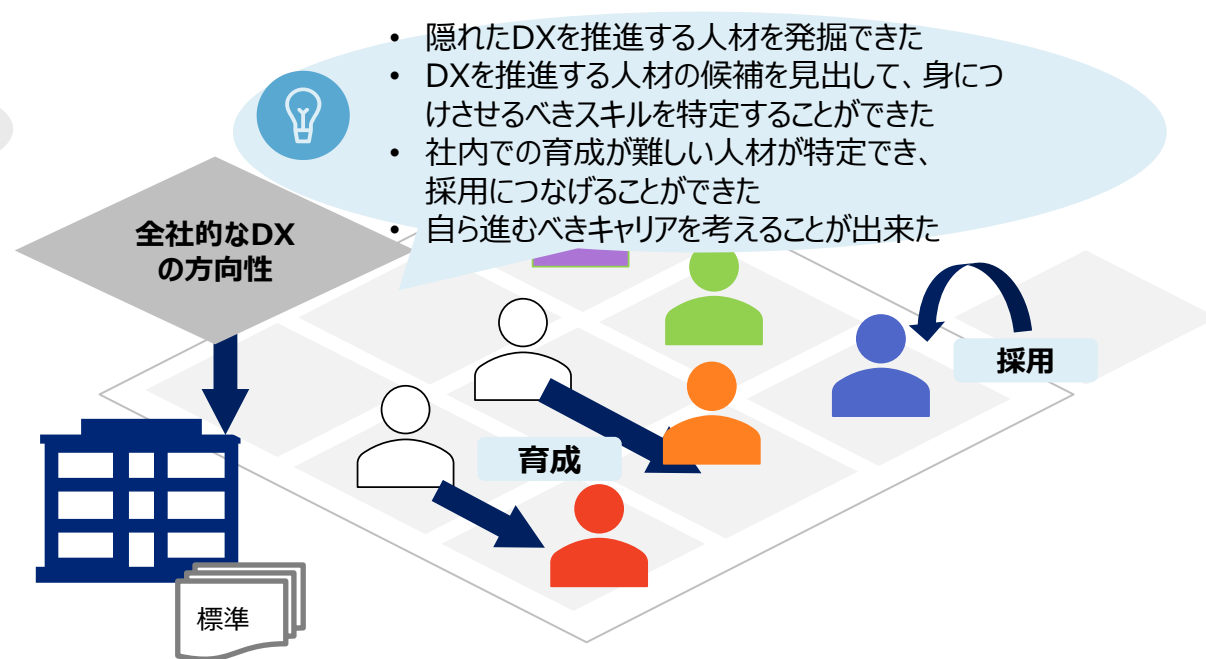
DX推進スキル標準がない場合（イメージ）

- 自社・組織にとって必要な人材の把握が難しいために、DXを推進する人材の確保・育成の取組みに着手できず、人材不足が課題となっている可能性がある



DX推進スキル標準がある場合（イメージ）

- 「DX推進スキル標準」を参考にすることで、自社・組織に必要な人材が明確になり、確保や育成の取組みに着手できている



DX推進スキル標準策定のねらい

DX推進スキル標準の訴求先

- DX推進スキル標準は、以下へ訴求するものとする
 - ✓ 事業規模やDXの進捗度合にかかわらず、データやデジタル技術を活用して競争力を向上しようとする**企業・組織**
 - ✓ 企業・組織においてデータやデジタル技術を活用した変革を推進する**個人**

DX推進スキル標準策定のねらい

- DXを推進する人材の役割や習得すべき知識・スキルを示し、それらを育成の仕組みに結び付けることで、リスキングの促進、実践的な学びの場の創出、能力・スキルの見える化を実現する

標準活用前（イメージ）



40代
食品小売・経営者

- DX推進の取組みを行いたいが、それができそうな人材が社内におらず、どのような知識やスキルを持った人材が必要となるのかもわからない



50代
製造・製造部門

- 社内のDXプロジェクトの推進役に任命されたが、今までに経験が無く、自身にどのような知識やスキルが必要なのかがわからない

標準活用後（イメージ）



- 自社が優先的に備えるべきロールが明確になった
- 必要な人材の育成に向け、自社の研修コンテンツを見直した



- プロジェクト推進に必要な知識やスキルが明確になった
- それらの習得に向け、コンテンツを選択し、学習している

DX推進スキル標準の策定方針

POINT

1

DXの推進において必要な人材を5 類型に区分して定義

DX推進スキル標準では、企業や組織のDXの推進において必要な人材のうち、主な人材を5つの「**人材類型**」として定義
(**ビジネスアーキテクト、デザイナー、データサイエンティスト、ソフトウェアエンジニア、サイバーセキュリティ**)

POINT

2

活躍する場面や役割の違いにより、2～4つのロールを定義

1つの「人材類型」の中に、活躍する場面や役割の違いを想定した2～4つの「ロール」を定義。**一人の人材が複数のロールを兼ねる/複数の人材で一つのロールを担うことも想定**し、多様な企業・組織においてDXを推進する際の役割分担の違いに合わせた柔軟な使い方を可能に

POINT

3

各ロールに求められるスキル・知識を大括りに定義

各「ロール」に求められるスキルや知識を、**全人材類型に共通する「共通スキルリスト**」として大括りに定義。スキルや知識に関する定義を軽量化することで、デジタル時代に求められる技術の変化に対して柔軟かつ迅速な対応を可能に

POINT

4

育成に必要な教育・研修を把握するための学習項目例を記載

「共通スキルリスト」には、「**スキル項目**」に関連づく「**学習項目例**」を記載。この「学習項目例」を、DXの推進に必要な人材を育成するための教育・研修等と関連付けることが可能

POINT

5

独力で業務が遂行でき、後進育成も可能なレベルを想定

DX推進スキル標準全体として、詳細なレベル評価指標は設定せず、育成の目標となりうる、**ITSS+「レベル4」相当**^{脚注}（独力で業務を遂行することが可能であり、**後進人材の育成も可能なレベル**）を想定

脚注 ITSS+ 共通レベル定義 (<https://www.ipa.go.jp/files/000065687.pdf>)

DX推進スキル標準の人材類型の範囲

- プロジェクト管理や、特定領域のチームの取り纏め、全社的な組織改革、人材育成、マーケティングの担い手は、プロジェクトの性質によって変わる可能性があるため、独立したロールとしては定義せず、ロールに必要なスキルとして定義している。
- 全社的な責任を担う経営層、管理や営業・販売の固有業務、及び社会的な取組みに関する以下の機能については、ロールや身につけるべきスキルの定義としては明確に含めていない。
 - 組織強化：経営戦略策定、個別の事業・プロジェクトへの投資判断、管理・統制の実務
 - 個別の事業・プロジェクト：事業、製品・サービスの営業・販売、社会的なDXの取組み

		DXの取組みの推進	
		DX推進スキル標準の人材類型として定義	ロールに必要なスキルとして定義
		マネジメント・管理	実行
個別の事業・プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> 一貫したDX推進のプロセス（構想～実装・導入、導入後の効果検証）における関係者のコーディネートと推進 	<ul style="list-style-type: none"> 事業、製品・サービスの変革や業務の効率化・高度化の構想～実装・導入～導入後の効果検証 事業、製品・サービスの運用・保守 	
	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト管理 特定領域のチームの取り纏め、リード 個別のプロジェクト・案件単位でのチーム作り、メンバーの人材育成 	<ul style="list-style-type: none"> マーケティング戦略策定、デジタルマーケティング 事業、製品・サービスの営業・販売 社会的なDXの取組み 	
組織強化	<ul style="list-style-type: none"> 経営戦略策定 個別の事業・プロジェクトへの投資判断 	<ul style="list-style-type: none"> 管理・統制の実務 	
		<ul style="list-style-type: none"> 全社的なDX推進のための組織改革、人材育成 	

DX推進スキル標準の検討体制

人材類型	委員
<p style="text-align: center;">ビジネス アーキテクト</p>	<p>白坂 成功 (主査) 慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 教授 江尻 昌紀 富士通 (株) グローバルカスタマーサクセスビジネスグループ Manufacturing事業本部 本部長代理 折茂 美保 ボストン コンサルティング グループ Managing Director & Partner 社会貢献グループ 日本リーダー 高橋 昌也 オムロン(株) イノベーション推進本部 DXビジネス革新センタ長 三枝 幸夫 出光興産 執行役員 CDO・CIO 栗原 正憲 NTTデータ ITサービス・ペイメント事業本部 カード&ペイメント事業部長</p>
<p style="text-align: center;">デザイナー</p>	<p>長谷川 敦士 (主査) 武蔵野美術大学造形構想学部教授、(株)コンセント 代表取締役社長 上野 学 ソシオメディア(株) 取締役 深津 貴之 (株)THE GUILD 代表取締役 久保隅 綾 (株)メルカリ Senior UX Researcher 田中 友美子 NTTコミュニケーションズ(株) KOEL Design Studio Head of Experience Design 泉 賢人 トヨタ自動車株式会社 デジタル変革推進室 室長</p>
<p style="text-align: center;">データ サイエンティスト</p>	<p>佐伯 諭 (主査) 新生フィナンシャル(株) CMO、(一社) データサイエンティスト協会 スキル定義委員会副委員長 孝忠 大輔 日本電気株式会社 AI・アナリティクス事業統括部 上席データサイエンティスト 高橋 範光 株式会社デジタルグローブアカデミア 代表取締役社長、株式会社チェンジ 執行役員 森谷 和弘 データ解析設計事務所 代表、データアナリティクスラボ(株)取締役CTO</p>
<p style="text-align: center;">ソフトウェア エンジニア</p>	<p>羽生田 栄一 (主査) (株)豆蔵 取締役CTO プロフェッショナル・フェロー、技術士 (情報工学部門) 和田 憲明 富士通(株) ジャパン・グローバルゲートウェイ アジャイル・コンサルタント 松下 享平 (株)ソラコム テクノロジー・エバンジェリスト 広木 大地 (株)レクター 代表取締役 藤井 崇介 (株)星野リゾート 情報システムグループシニアアーキテクト</p>
<p style="text-align: center;">サイバー セキュリティ</p>	<p>武智 洋 (主査) 日本電気(株) サイバーセキュリティ戦略統括部 エグゼクティブエキスパート 日本セキュリティオペレーション事業者協議会 代表 荒川 大 (一社)サイバースイッチ情報センター 事務局長、(株)ENNA 代表取締役 平山 敏弘 iU情報経営イノベーション専門職大学 学部長補佐 教授 持田 啓司 情報セキュリティ教育事業者連絡会、(ISEPA) 代表、(株)ラック シニアコンサルタント 丹 康雄 北陸先端科学技術大学院大学 副学長 教授 佐々木 弘志 フォーティネットジャパン(株) OTビジネス開発部 部長</p>

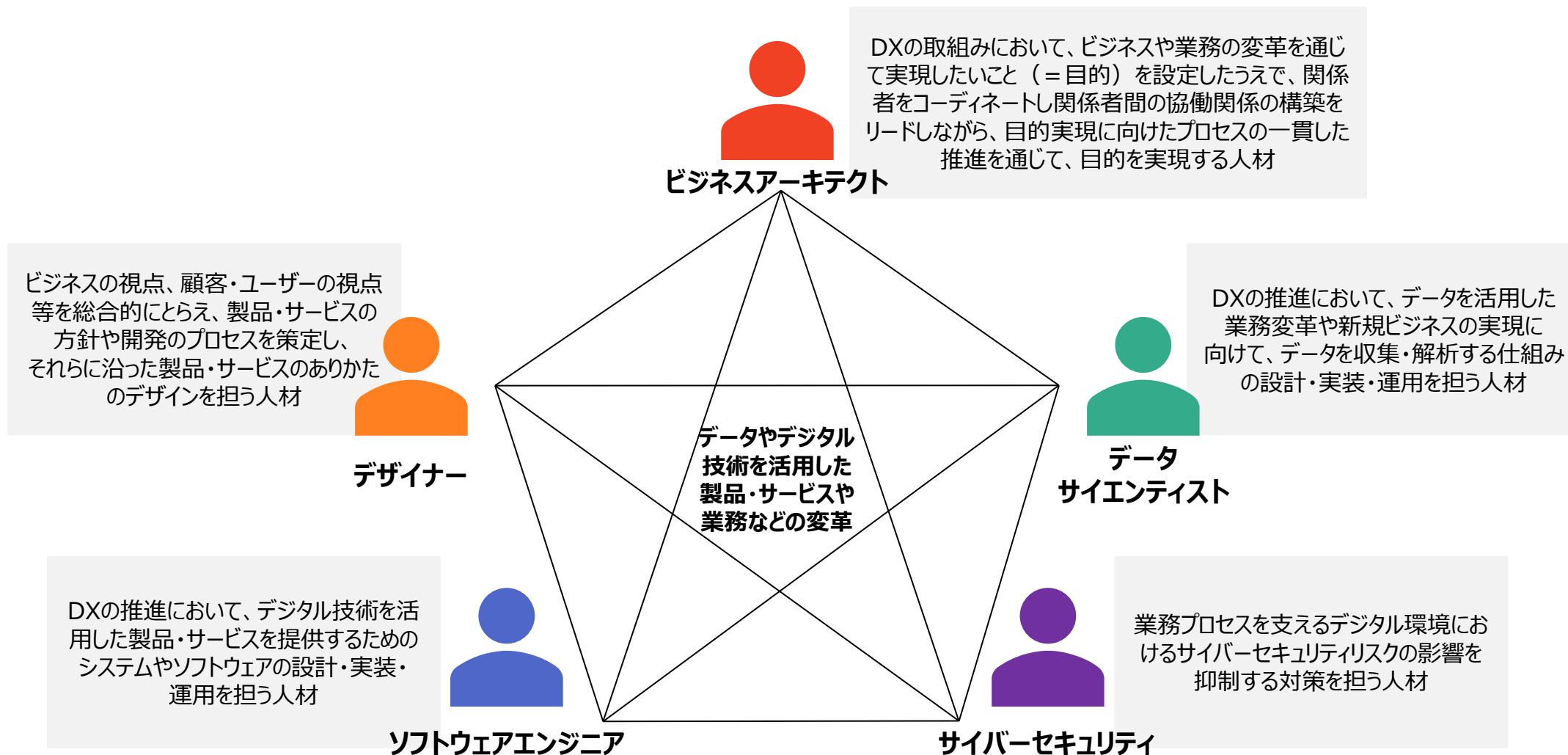
DX推進スキル標準の構成

- DX推進スキル標準は、5つの人材類型と、その下位区分であるロール、全ての人材類型・ロールに共通の共通スキルリストから成り立つ。
- ロールとは、企業・組織や個人にとって活用がしやすいように、人材類型を業務の違いによってさらに詳細に区分したものである。

人材類型			ビジネスアーキテクト			デザイナー			データサイエンティスト			ソフトウェアエンジニア			サイバーセキュリティ	
ロール (DXの推進において担う責任、 主な業務、必要なスキルにより定義)			ビジネスアーキテクト (新規事業開発)			サービスデザイナー			データビジネス ストラテジスト			フロントエンドエンジニア			サイバーセキュリティ マネージャー	
			ビジネスアーキテクト (既存事業の高度化)			UX/UIデザイナー			データサイエンス プロフェッショナル			バックエンドエンジニア SRE クラウドエンジニア/ エンジニア			サイバーセキュリティ エンジニア	
共通スキルリスト	ビジネス イノベーション	スキル項目 ……	各ロールに必要なスキル	⋮	⋮	⋮	⋮	全人材類型に共通の 「共通スキルリスト」から 各ロールに必要なスキルを定義						⋮	⋮	
	データ活用	スキル項目 ……		⋮	⋮											
	テクノロジー	スキル項目 ……		⋮	⋮											
	セキュリティ	スキル項目 ……		⋮	⋮											
	パーソナル スキル	スキル項目 ……		⋮	⋮											

人材類型の定義

- DXを推進する主な人材として5つの人材類型を定義した。
- DXを推進する人材は、他の類型とのつながりを積極的に構築した上で、他類型の巻き込みや他類型への手助けを行うことが重要である。また、社内外を問わず、適切な人材を積極的に探索することも重要である。



ロール一覧

- 人材類型をさらに詳細に区分し、以下の通りロールを設定している。

人材類型	ロール	DX推進において担う責任
ビジネス アーキテクト	ビジネスアーキテクト (新規事業開発)	新しい事業、製品・サービスの目的を見出し、新しく定義した目的の実現方法を策定したうえで、関係者をコーディネートし関係者間の協働関係の構築をリードしながら、目的実現に向けたプロセスの一貫した推進を通じて、目的を実現する
	ビジネスアーキテクト (既存事業の高度化)	既存の事業、製品・サービスの目的を見直し、再定義した目的の実現方法を策定したうえで、関係者をコーディネートし関係者間の協働関係の構築をリードしながら、目的実現に向けたプロセスの一貫した推進を通じて、目的を実現する
	ビジネスアーキテクト (社内業務の高度化・効率化)	社内業務の課題解決の目的を定義し、その目的の実現方法を策定したうえで、関係者をコーディネートし関係者間の協働関係の構築をリードしながら、目的実現に向けたプロセスの一貫した推進を通じて、目的を実現する
デザイナー	サービスデザイナー	社会、顧客・ユーザー、製品・サービス提供における社内外関係者の課題や行動から顧客価値を定義し製品・サービスの方針（コンセプト）を策定するとともに、それを継続的に実現するための仕組みのデザインを行う
	UX/UIデザイナー	バリュープロポジション ^{脚注} に基づき製品・サービスの顧客・ユーザー体験を設計し、製品・サービスの情報設計や、機能、情報の配置、外観、動的要素のデザインを行う
	グラフィックデザイナー	ブランドのイメージを具現化し、ブランドとして統一感のあるデジタルグラフィック、マーケティング媒体等のデザインを行う
データ サイエンティスト	データビジネスストラテジスト	事業戦略に沿ったデータの活用戦略を考えるとともに、戦略の具体化や実現を主導し、顧客価値を拡大する業務変革やビジネス創出を実現する
	データサイエンスプロフェッショナル	データの処理や解析を通じて、顧客価値を拡大する業務の変革やビジネスの創出につながる有意義な知見を導出する
	データエンジニア	効果的なデータ分析環境の設計・実装・運用を通じて、顧客価値を拡大する業務変革やビジネス創出を実現する
ソフトウェア エンジニア	フロントエンドエンジニア	デジタル技術を活用したサービスを提供するためのソフトウェアの機能のうち、主にインターフェース（クライアントサイド）の機能の実現に主たる責任を持つ
	バックエンドエンジニア	デジタル技術を活用したサービスを提供するためのソフトウェアの機能のうち、主にサーバサイドの機能の実現に主たる責任を持つ
	クラウドエンジニア/SRE	デジタル技術を活用したサービスを提供するためのソフトウェアの開発・運用環境の最適化と信頼性の向上に責任を持つ
	フィジカルコンピューティングエンジニア	デジタル技術を活用したサービスを提供するためのソフトウェアの実現において、現実世界（物理領域）のデジタル化を担い、デバイスを含めたソフトウェア機能の実現に責任を持つ
サイバー セキュリティ	サイバーセキュリティマネージャー	顧客価値を拡大するビジネスの企画立案に際して、デジタル活用に伴うサイバーセキュリティリスクを検討・評価するとともに、その影響を抑制するための対策の管理・統制の主導を通じて、顧客価値の高いビジネスへの信頼感向上に貢献する
	サイバーセキュリティエンジニア	事業実施に伴うデジタル活用関連のサイバーセキュリティリスクを抑制するための対策の導入・保守・運用を通じて、顧客価値の高いビジネスの安定的な提供に貢献する

脚注 バリュープロポジション：顧客が求める価値を把握した上で、ビジネスのケイパビリティを踏まえて決定される、企業が製品・サービスを購入する顧客に提供する利益や、顧客がその製品・サービスを買うべき理由

共通スキルリストの全体像

- 全人材類型に共通する「共通スキルリスト」は、DXを推進する人材に求められるスキルを5つのカテゴリー・12のサブカテゴリーで整理している。
- 各カテゴリーは2つ以上のサブカテゴリに分け、1つ目では主要な活動を、2つ目以降ではそれを支える要素技術と手法を、大くりに整理

カテゴリー	サブカテゴリー	スキル項目
ビジネス変革	戦略・マネジメント・システム	ビジネス戦略策定・実行
		プロダクトマネジメント
		変革マネジメント
		システムズエンジニアリング
		エンタープライズアーキテクチャ
		プロジェクトマネジメント
	ビジネスモデル・プロセス	ビジネス調査
		ビジネスモデル設計
		ビジネスアナリシス
		検証（ビジネス視点）
		マーケティング
		ブランディング
	デザイン	顧客・ユーザー理解
		価値発見・定義
		設計
検証（顧客・ユーザー視点）		
データ活用	データ・AIの戦略的活用	データ理解・活用
		データ・AI活用戦略
		データ・AI活用業務の設計・事業実装・評価
	AI・データサイエンス	数理統計・多変量解析・データ可視化
		機械学習・深層学習
	データエンジニアリング	データ活用基盤設計
		データ活用基盤実装・運用

カテゴリー	サブカテゴリー	スキル項目
テクノロジー	ソフトウェア開発	コンピュータサイエンス
		チーム開発
		ソフトウェア設計手法
		ソフトウェア開発プロセス
		Webアプリケーション基本技術
		フロントエンドシステム開発
		バックエンドシステム開発
		クラウドインフラ活用
		SREプロセス
		サービス活用
デジタルテクノロジー	フィジカルコンピューティング	
	その他先端技術	
	テクノロジートレンド	
セキュリティ	セキュリティマネジメント	セキュリティ体制構築・運営
		セキュリティマネジメント
		インシデント対応と事業継続
		プライバシー保護
	セキュリティ技術	セキュア設計・開発・構築
		セキュリティ運用・保守・監視
パーソナルスキル	ヒューマンスキル	リーダーシップ
		コラボレーション
	コンセプチュアルスキル	ゴール設定
		創造的な問題解決
		批判的思考
適応力		

ビジネス変革 | 戦略・マネジメント・システム

カテゴリー	サブカテゴリー	スキル項目	内容（スキル項目ごとの説明）	学習項目例
ビジネス変革	戦略・マネジメント・システム	ビジネス戦略策定・実行	<ul style="list-style-type: none"> スタートアップ・エコシステム構築を含むビジネス戦略を策定し、プロダクト（製品・サービス）のポートフォリオマネジメントを行うスキル 	<ul style="list-style-type: none"> エコシステム & アライアンス（必要なケイパビリティを持つ他社・個人の探索、M&A、投資、契約） リスクマネジメント（知的財産権等の権利保護、コンプライアンス、ビジネス倫理） ポートフォリオマネジメント 持続可能性
		プロダクトマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> プロダクト（製品・サービス）のバリュープロポジションを定義し、価値提供によって収益を上げる方法、プロダクトそのもの、関連するプロセスを構想し実現するスキル 	<ul style="list-style-type: none"> プロダクトマネジメント、プロダクトビジョンの定義・共有・進化、プロダクト開発チームリーダー プロダクト観点でのビジネス・UX・テクノロジーの統合 プロダクトファミリの管理 経営・財務・法務・マーケティング・顧客サポート・営業等のステークホルダー管理
		変革マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> DXを推進するうえで、阻害要因となりえる部分（組織体制・文化・風土や各種制度、人材、業務プロセス）を特定し、施策を立案するスキル 組織・業務面での変革に関係者を巻き込んでいくスキル 	<ul style="list-style-type: none"> 組織体制、組織文化・風土、各種制度、人材、業務プロセス ステークホルダーマネジメント
		システムズエンジニアリング	<ul style="list-style-type: none"> あらゆるものを相互作用する複数の要素の集合体（システム）ととらえ、複数の専門領域にまたがる多様な価値を考慮しつつ全体最適を実現するためのアプローチを構想するスキル 	<ul style="list-style-type: none"> システム、ライフサイクル、プロセス システムライフサイクルプロセスにおける具体的な活動（要求分析、アーキテクティング、実装、インテグレーション、テスト、運用、保守、廃棄）
		エンタープライズアーキテクチャ	<ul style="list-style-type: none"> 組織を構成する事業・業務、データ、ITシステムなどの要素を整理し、階層構造化・標準化し全体最適化を行うスキル 	<ul style="list-style-type: none"> ビジネスアーキテクチャ、事業を管理するための仕組み（ERP、PLM、CRM、SCM等） データアーキテクチャ、データガバナンス ITシステムアーキテクチャ
		プロジェクトマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> 非常に短い期間で反復を繰り返し、ビジネス環境や要求事項の変化に対応していくスキル プロジェクト又は複数のプロジェクトを含むプログラムを、所与の品質・予算・期間で、予定通りに遂行するスキル 	<ul style="list-style-type: none"> PMBOK®第7版 テラリング、アジャイル/ウォーターフォール 調達マネジメント

ビジネス変革 | ビジネスモデル・プロセス

カテゴリー	サブカテゴリー	スキル項目	内容（スキル項目ごとの説明）	学習項目例
ビジネス変革	ビジネスモデル・プロセス	ビジネス調査	<ul style="list-style-type: none"> 社会課題やビジネスのメガトレンド、業界の市場規模や成長性、事業・プロダクト・業務の成功要因や成長課題を把握するスキル 	<ul style="list-style-type: none"> 調査の設計、ビジネスフレームワーク（PEST、3C、5Forces、SWOT、STP、4P、バリューチェーン 等） ビジネス・業務とデジタル技術の関連性
		ビジネスモデル設計	<ul style="list-style-type: none"> 成功要因や成長課題から、製品やサービスの目的やビジョンを策定するスキル コスト構造、チャネルを整理した上で、収益モデルなどを検討し、収益を上げる仕組みを設計するスキル 	<ul style="list-style-type: none"> ビジネスモデルキャンバス、収益モデル（売り切り、サービスの付加、サブスク 等）
		ビジネスアナリシス	<ul style="list-style-type: none"> 製品やサービスの提供に必要な活動の現状／目指す姿を可視化し、かつ活動の中で特に重要なもの・価値を生み出すものを特定するスキル 目指す姿の実現に向けたデジタル化領域を明確にするスキル 	<ul style="list-style-type: none"> 製品やサービスの提供に必要な活動の可視化に関するフレームワーク（サービスブループリント、バリューチェーン分析、業務プロセス分析、ステークホルダーマップ、サービス生態系マップ） 要求定義（ビジネスプロセス関連図、業務フロー図 等）
		検証 （ビジネス視点）	<ul style="list-style-type: none"> 開発した製品やサービスのビジネスとしての持続可能性（得られる収益がどの程度か、競争優位性を確保できるか、コストをどの程度削減できるか）を検証するスキル 	<ul style="list-style-type: none"> バリュープロポジションを踏まえた検証アプローチの設計、実施 モニタリングのためのKPI設定
		マーケティング	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの顧客は誰かを明確にし、市場のニーズと提供プロダクトの価値を明確にして差別化し、適切な方法で適切な顧客に価値を届け収益を上げる仕組みを作り実行し改善し続けるスキル 	<ul style="list-style-type: none"> 顧客開発、バネフィットと差別化、Webマーケティング、SEO、SNSマーケティング、カスタマーサポート、AI活用マーケティング
		ブランディング	<ul style="list-style-type: none"> 自社ブランドに対する顧客のロイヤリティを高め差別化する戦略の策定・実行を行うスキル 	<ul style="list-style-type: none"> ブランドプロポジション・ブランドアイデンティティ

ビジネス変革 | デザイン

カテゴリー	サブカテゴリー	スキル項目	内容（スキル項目ごとの説明）	学習項目例
ビジネス変革	デザイン	顧客・ユーザー理解	<ul style="list-style-type: none"> ユーザー調査（顧客満足度・利用データ等の調査やインタビュー等）や市場・競合調査の設計、実施を行うスキル ユーザー調査の結果から、顧客の期待や不満、新たなニーズや競合、トレンドを把握・分析し、インサイトを導き出すスキル 	<ul style="list-style-type: none"> インタビュー設計、ワークショップ設計 ユーザー調査（A/Bテスト、カードソーティング、日記調査、フォーカスグループ等）、市場・競合調査（定量・定性） 調査結果分析、参加型デザイン ペルソナとジャーニーマップ
		価値発見・定義	<ul style="list-style-type: none"> ステークホルダーをファシリテートしながら、顧客・ユーザーのニーズを基にアイデアを発散させ、バリュープロポジションを定義するスキル 	<ul style="list-style-type: none"> 価値発見におけるフレームワーク（サービスブループリント、アサンプションマトリクス等） アイデーションのための手法（ブレインストーミング、KJ法、シナリオ法、ペーパープロトタイピング） バリュープロポジション 製品・サービスの方針（コンセプト）策定
		設計	<ul style="list-style-type: none"> 顧客・ユーザーのニーズを踏まえて、必要な機能やコンテンツを明確化するスキル 顧客・ユーザーにとってのわかりやすさや見つけやすさを考慮して、機能・コンテンツの構造や骨格をデザインするスキル ユーザーにとって好ましい外観や動的要素（Look & Feel）をデザインするスキル 	<ul style="list-style-type: none"> プロトタイピング 情報設計、コンテンツ設計、アクセシビリティ・ユーザビリティ設計、UI設計（ワイヤーフレーム、モックアップ、オブジェクト指向/タスク指向等） デザインシステム（サイズ、フォント、コンポーネント、カラー等） 人の行動原理や心理学を基にしたデザイン でき上がった製品・サービスの倫理的観点からのチェック
		検証 （顧客・ユーザー視点）	<ul style="list-style-type: none"> 定義したバリュープロポジションを、実装した製品やサービスを通じて実際に顧客が体験できるか、顧客にとって有用な体験になっているかどうかを検証するスキル 	<ul style="list-style-type: none"> コンセプトテスト ユーザビリティ評価の計画と実施
		その他デザイン技術	<ul style="list-style-type: none"> マーケティングに関わるデジタル媒体のグラフィックをデザインするスキル 電子書籍・カタログ等の誌面を読みやすい誌面にレイアウトしまとめるスキル 	<ul style="list-style-type: none"> ブランディングの方針（コンセプト）策定（ムードボード、ブランド方針等） グラフィックデザイン、3Dデザイン、イラスト等の制作 編集、コンテンツ企画、映像制作、UXライティング 写真・アート等のディレクション

データ活用

カテゴリー	サブカテゴリー	スキル項目	内容（スキル項目ごとの説明）	学習項目例
データ活用	データ・AIの戦略的活用	データ理解・活用	<ul style="list-style-type: none"> グラフ・図表等を含む統計情報や各種分析手法を適用したデータ分析結果を正確に理解し、その意味や背景を深く洞察するスキル 	<ul style="list-style-type: none"> データ理解（データ理解、意味合いの抽出、洞察） データの理解・検証（統計情報への正しい理解、データ確認、俯瞰・メタ思考、データ理解、データ粒度）
		データ・AI活用戦略	<ul style="list-style-type: none"> 事業戦略や組織的課題、顧客ニーズ等を踏まえて、データ・AI技術を活用した課題解決方法や新たなビジネスモデルを提案するスキル 	<ul style="list-style-type: none"> 着想・デザイン（着想、デザイン、AI活用検討、開示・非開示の決定） 課題の定義（KPI、スコーピング、価値の見積り）
		データ・AI活用業務の設計・事業実装・評価	<ul style="list-style-type: none"> データ・AI戦略上の目的の実現に向けたアプローチを設計した上で、データ・AI分析の仕組みを現場に実装し、継続的に改善するスキル 	<ul style="list-style-type: none"> アプローチ設計（データ入手、AI-ready、アプローチ設計、分析アプローチ設計） 分析評価（評価、業務へのフィードバック） 事業への実装（実装、評価・改善の仕組み） プロジェクトマネジメント（プロジェクト発足、プロジェクト計画、運用、横展開、方針転換、完了、リソースマネジメント、リスクマネジメント）
	AI・データサイエンス	数理統計・多変量解析・データ可視化	<ul style="list-style-type: none"> 統計学的知見に基づく手法を用いて、データを解析し、その結果を洞察するスキル 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎数学（統計数理基礎、線形代数基礎、微分・積分基礎、集合論基礎） 予測（回帰・分類、評価）、推定・検定、グルーピング（グルーピング、異常検知） 性質・関係性の把握（性質・関係性の把握、グラフィカルモデル、因果推論） サンプリング データ加工（データクレンジング、データ加工、特徴量エンジニアリング） 意味合いの抽出・洞察 データ可視化（方向性定義、軸出し、データ加工、表現・実装技法、意味抽出） 時系列分析、パターン発見、シミュレーション・データ同化、最適化
		機械学習・深層学習	<ul style="list-style-type: none"> 機械学習や深層学習、自然言語処理・画像認識・音声認識などの手法を用いて、適切なモデルを構築し評価するスキル 	<ul style="list-style-type: none"> 機械学習、深層学習、強化学習、自然言語処理、画像認識、映像認識、音声認識
	データエンジニアリング	データ活用基盤設計	<ul style="list-style-type: none"> データから成果を生むデータ活用基盤の準備において、必要なシステム環境や収集データ、テーブルなどの要件を固めるスキル 	<ul style="list-style-type: none"> 環境構築（システム企画、システム設計、アーキテクチャ設計） データ収集（クライアント技術、通信技術、データ抽出、データ収集、データ統合） データ構造（基礎知識、要件定義、テーブル定義、テーブル設計）
		データ活用基盤実装・運用	<ul style="list-style-type: none"> データから成果を生むデータ活用基盤を実装し、円滑かつ効果的に運用するために必要なデータを扱うスキル 	<ul style="list-style-type: none"> データ蓄積（DWH、分散技術、クラウド、リアルタイム処理、キャッシュ技術、データ蓄積技術、検索技術） データ加工（フィルタリング処理、ソート処理、結合処理、前処理、マッピング処理、サンプリング処理、集計処理、変換・演算処理） データ共有（データ出力、データ展開、データ連携） プログラミング（基礎プログラミング、拡張プログラミング、アルゴリズム、分析プログラム、SQL） AIシステム運用（ソース管理、AutoML、MLOps、AIOps）

テクノロジー

SPA・・・Single Page Application IaC・・・Infrastructure as Code
 CMS・・・コンテンツマネジメントシステム CDN・・・コンテンツデリバリシステム
 PWA・・・Progressive Web Apps

カテゴリー	サブカテゴリー	スキル項目	内容（スキル項目ごとの説明）	学習項目例
テクノロジー	ソフトウェア開発	コンピュータサイエンス	<ul style="list-style-type: none"> ソフトウェア開発において求められるデータ構造やアルゴリズム等に関するスキル 	<ul style="list-style-type: none"> ソフトウェアエンジニアリング、最適化、データ構造、アルゴリズム、計算理論
		チーム開発	<ul style="list-style-type: none"> チームでのソフトウェア開発の生産性を高めるために必要となるスキル 	<ul style="list-style-type: none"> Git/Gitワークフロー、チームビルディング、リーダブルコード、テクニカルライティング
		ソフトウェア設計手法	<ul style="list-style-type: none"> 目的に沿ったソフトウェアを実装するためにデータ構造や内部アーキテクチャを検討し設計に落とし込むスキル 	<ul style="list-style-type: none"> 要求定義手法、ドメイン駆動設計、ソフトウェア設計原則（SOLID）、クリーンアーキテクチャ、デザインパターン、非機能要件定義
		ソフトウェア開発プロセス	<ul style="list-style-type: none"> ソフトウェア開発において開発計画や品質などを管理するスキル 	<ul style="list-style-type: none"> ソフトウェア開発マネジメント（CCPM、アジャイル開発手法、ソフトウェア見積り）、TDD（テスト駆動開発）、ソフトウェア品質管理、OSSライセンス管理
		Webアプリケーション基本技術	<ul style="list-style-type: none"> Webアプリケーションの設計・開発に必要な基本的なスキル 	<ul style="list-style-type: none"> HTML/CSS、JavaScript、REST、WebSocket、SPA、CMS
		フロントエンドシステム開発	<ul style="list-style-type: none"> ユーザーに対して直接の接点となる画面を設計・開発するスキル 	<ul style="list-style-type: none"> UI設計、レスポンシブデザイン、モックアップ開発、フロントエンドフレームワーク、PWA、検索最適化/SEO
		バックエンドシステム開発	<ul style="list-style-type: none"> ユーザーの目に見えないサーバサイドの機能を設計・開発するスキル 	<ul style="list-style-type: none"> データベース設計、オブジェクトストレージ、NoSQL、バックエンドフレームワーク、キャッシュ、負荷分散、認証認可
		クラウドインフラ活用	<ul style="list-style-type: none"> クラウドサービスを利用しシステムインフラを構築・運用するスキル 	<ul style="list-style-type: none"> クラウド基盤（PaaS/IaaS）、マイクロサービス、サーバレス、コンテナ技術、IaC、CDN
		SREプロセス	<ul style="list-style-type: none"> 開発と運用が協力的、リリースサイクルの向上とサービスの安定を目指すスキル 	<ul style="list-style-type: none"> オブザーバビリティ、オープンテレメトリ、four keys、カオスエンジニアリング、CI/CD & DevOps
		サービス活用	<ul style="list-style-type: none"> 基幹システムを含む社内の多システムや、外部サービスとのデータ連携やシステム連携を行うスキル 	<ul style="list-style-type: none"> API管理、データ連携（iPaaS、ETL、EAI）、RPA、ローコード/ノーコード
	デジタルテクノロジー	フィジカルコンピューティング	<ul style="list-style-type: none"> センサー、ロボットや既存機器のIoT化等により物理的な事象をデジタル化して扱うスキル 	<ul style="list-style-type: none"> エッジコンピューティング、IoTクラウド、LPWA、IoTセンサー、ウェアラブル、ロボティクス、ドローン、SBC（Arduino、RaspberryPi等）、IoTゲートウェイ、認識技術（画像、音声等）、3Dセンシング、3Dプリンタ、位置測位
		その他先端技術	<ul style="list-style-type: none"> 上記以外の実装技術や、応用事例の少ない実装技術に関する知識 	<ul style="list-style-type: none"> ※以下に挙げる先端技術を例として必要に応じて学習 WebAssembly、HTTP/3、ブロックチェーン基盤、秘密計算、Trusted Web、量子コンピューティング、HITL:Human-in-the-Loop
		テクノロジートレンド	<ul style="list-style-type: none"> 新しいデジタル技術を応用したビジネスやサービスに関する知識 	<ul style="list-style-type: none"> ※以下に挙げる先端技術を例として必要に応じて学習 メタバース、スマートコントラクト、デジタル通貨、インフォマティクス（マテリアル分野、バイオ分野、計測分野等）、GX（カーボントレーシング等）

セキュリティ

カテゴリー	サブカテゴリー	スキル項目	内容（スキル項目ごとの説明）	学習項目例
セキュリティ	セキュリティ マネジメント	セキュリティ体制 構築・運営	<ul style="list-style-type: none"> セキュリティ対策を実施する体制の構築とその維持運営（要員の確保・育成を含む）を円滑に行うためのスキル 組織としてのセキュリティカルチャーを企業内で醸成する活動を行うためのスキル 	<ul style="list-style-type: none"> セキュリティ対応組織（セキュリティ統括機能、SOC、xSIRT 等）との連携手順 サービスや機器のセキュリティ対策に関する組織内の役割と責任の明確化 組織におけるセキュリティカルチャーの醸成方法
		セキュリティ マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> 情報、サイバー空間、OT/IoT環境等のセキュリティマネジメントのプロセスを組織として適切に実施するためのスキル 	<ul style="list-style-type: none"> セキュリティ関連法制度 ポリシー、規程、マニュアル等の整備 脅威インテリジェンスの活用を含むリスクの認知 リスクアセスメント手法 セキュリティ要件定義、機能要件としてのセキュリティ機能 認証方式の種類・特徴と選定方法 情報資産管理、構成管理 セキュリティ教育・トレーニングと資格・認証制度 情報セキュリティ監査の手法
		インシデント対応と 事業継続	<ul style="list-style-type: none"> 各種リスク（サイバー攻撃、過失、内部不正、災害、障害等）がデジタル利活用におけるセキュリティインシデントとして顕在化した際の影響を抑制し、事業継続を可能とするためのスキル 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル利活用における事業継続 事業継続計画の整備と訓練 インシデント対応と危機管理の連携手順 日常及び緊急時の情報共有とコミュニケーション
	プライバシー保護	<ul style="list-style-type: none"> パーソナルデータ等のプライバシー情報の保護に求められる要件の理解とその実践に関するスキル 	<ul style="list-style-type: none"> プライバシー保護関連の法制度 ビジネス内容を踏まえたプライバシー保護に関するマネジメントシステムの検討 PIA（プライバシー影響評価）の概要と手順 データの取扱におけるプライバシー関連リスクと対策 	
セキュリティ 技術	セキュア設計・開発・ 構築	<ul style="list-style-type: none"> デジタルサービス・製品の企画設計を行う際に、サイバー攻撃や各種不正の影響を受けにくくするために遵守すべき基準や要件をもとに設計・開発・構築を行うスキル デジタルサービス・製品の脆弱性について理解し、診断を適切に実践（委託による実施を含む）するためのスキル 	<ul style="list-style-type: none"> セキュアシステム設計の概要と実践方法 DevSecOpsの考え方と実践方法 セキュリティ要件及びセキュリティ機能の実現・実装 IT/OT/IoTデバイスにおけるセキュリティ対策 クラウドサービス及びネットワーク機器のセキュリティ機能の概要と設定 脆弱性の概念と対策・診断方法 	
	セキュリティ運用・ 保守・監視	<ul style="list-style-type: none"> デジタルサービスをセキュアに運用するための保守と対策を適切に実践するためのスキル セキュリティに関する監視とインシデントの原因究明等を適切に実践するためのスキル 	<ul style="list-style-type: none"> 脅威情報や脆弱性情報の活用 モニタリングの方法と観測データの活用 運用・監視業務へのAI応用 インシデント時の影響調査、トリアージ方法 デジタルフォレンジックサービスの活用 	

パーソナルスキル

カテゴリー	サブカテゴリー	スキル項目	内容（スキル項目ごとの説明）	学習項目例
パーソナルスキル	ヒューマンスキル	リーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> ゴール達成のイメージの伝達やWin-Winな関係づくりを通じて、社内外の様々な関係者が参画しやすいチーム作りを行うスキル 必要なタスクを具現化し、関係者それぞれの強み・関心を踏まえて、タスク遂行を働きかけるスキル 	<ul style="list-style-type: none"> チームビルディング、周囲を巻き込むコミュニケーション、D&I、エンパワーメント、ステークホルダーマネジメント
		コラボレーション	<ul style="list-style-type: none"> 意見の対立や矛盾を敢えて引き出し、論点を深めることによって、顧客・ユーザーを含めた多様な価値観を持つ人たちの間で合意をとりゴールに向けて協働するスキル 	<ul style="list-style-type: none"> ファシリテーション（傾聴・質問、論点の構造化）、心理的安全性、組織・チームの類型
	コンセプチュアルスキル	ゴール設定	<ul style="list-style-type: none"> 様々な視点からの問題提起を通じて、未来を想像し、取組みの目的や目的の最終到達点であるゴールを設定するスキル 合理的判断だけでなく感情や無意識の心理的反応に訴えかけるストーリーを作り、ゴールの達成イメージをビジョンとして描くスキル 	<ul style="list-style-type: none"> 未来思考 ストーリーテリング、ビジョナリーリーダーシップ
		創造的な問題解決	<ul style="list-style-type: none"> 複数の専門性や社会・顧客の動向を踏まえ、これまでなかった実験的・斬新なアイデアやユーザー・関係者の意見を再構築することによって、創造的に問題を解決するスキル 	<ul style="list-style-type: none"> デザイン思考、水平思考、仮説思考、フェイルファースト
		批判的思考	<ul style="list-style-type: none"> 得られた情報を鵜呑みにせず評価し、信頼できる情報を基に合理的なプロセスを経て思考を行うスキル 	<ul style="list-style-type: none"> 批判的思考・論理的思考、システム思考
		適応力	<ul style="list-style-type: none"> 変化に適応し、短いスパンでサイクルを回しながら、フィードバックを反映して持続的に改善していくスキル 生涯にわたって新たに必要となるスキルを把握し、学習するスキル（※デジタルソリューションに限らず、事業計画・企画書・コンセプトチャートなども対象に含む） 	<ul style="list-style-type: none"> アジリティ、OODAループ、リーン思考

デザイナーとは

定義

ビジネスの視点、顧客・ユーザーの視点等を総合的にとらえ、製品・サービスの方針や開発のプロセスを策定し、それらに沿った製品・サービスのありかたのデザインを担う人材

◆ 「デザイナー」を定義する理由

- ✓ DXを推進する人材として、データやデジタル技術の活用の先にある**ビジネスそのものの変革を、ビジネスの視点だけでなく顧客・ユーザーの視点を起点として実現する人材が必要であると考え、本類型を定義**することにした。
- ✓ 経済産業省の「デザイン政策ハンドブック2020」によると、市場や技術、社会の大きな変化により、**デザインに求められる役割は、単なる造形を美しくする役割から、人を起点とした価値創造・問題解決の手段へと変化**している。このようなデザインに期待される役割の変化を踏まえ、顧客・ユーザーの視点からビジネスの変革を実現する人材として「デザイナー」を定義した。

◆ 「デザイナー」が活躍する場面

- ✓ デザイナーの活躍場面として、組織ケイパビリティの強化に関する取組み（デザイン思考を全社的に浸透させるような組織作り、人材育成）は除外しており、あくまでも**個別のデータやデジタル技術を活用した取組み（個別の製品・サービス・業務の単位を想定）を対象**としている。
 - DX推進スキル標準で想定する人材のレベルとして、**全社的な取組みの責任を担うような経営層レベルを想定していないため**
 - ただし、プロジェクトの性質によっては組織ケイパビリティ強化が求められる場合もあるため、これに関するスキルをデザイナー類型が持つておくべきものとして定義した
- ✓ 個別の取組みの中には、**製品・サービスの提供先が社内である場合も含まれる。**
- ✓ 個別の取組みの中では、**DXを進めていくためのあらゆるプロセス**（例：構想、実装、仮説検証、導入後の効果検証 等）**においてデザイナーが活躍するものと想定**。デザインに期待される役割の変化を踏まえ、単なる外観のデザインだけでなく、**新たな製品・サービスの構想においてもデザイナーが活躍するものとする。**

デザイナーとは | 期待される役割 (1/2)

- 「デザイナー」に具体的に期待される役割や求められるアクションは、以下のとおり。

◆ 顧客・ユーザー視点でのアプローチを、取組みの関係者が常に意識できるように導く

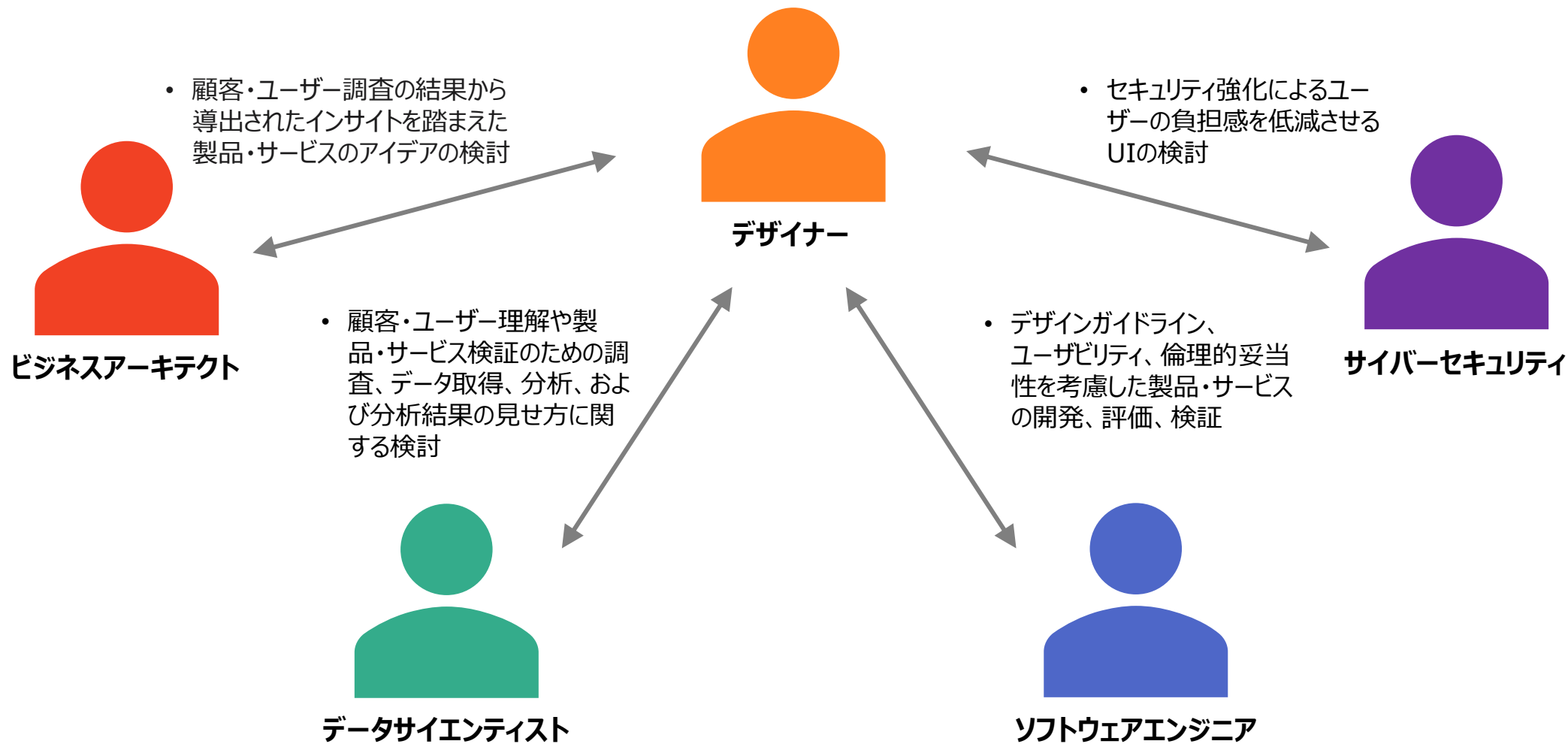
- ✓ 見落とされがちな顧客・ユーザー視点のアプローチが欠落しないよう、DXの取組みのあらゆる場面において、顧客・ユーザー視点で関係者が取組みを進められるようにサポートすることが求められる。例えば以下のような内容が想定される。
 - 製品・サービスの構想において、収益性やコスト削減などの企業視点だけになっていないか確認し、顧客・ユーザー視点の検討をファシリテートする
 - アプリケーション等の開発の場面においては、必要な機能が実装できているかだけでなく、顧客・ユーザーにとってのユーザビリティ（分かりやすさ、見つけやすさ、使いやすさ）が実現できているかを確認する

◆ 倫理的観点を踏まえた顧客・ユーザーとの接点（製品・サービスと顧客・ユーザーとが関わるポイント）のデザインを行う

- ✓ 顧客・ユーザーとの接点をデザインするにあたっては、顧客・ユーザーにとってその製品・サービスが分かりやすいか、見つけやすいか、好ましいかといった要素だけでなく、倫理的な妥当性（例：非倫理的な誘導を行っていないか）も踏まえることが求められる。
- ✓ 人の行動原理や心理学を基にしてデザインを行うことや、でき上がった製品・サービスについて倫理的観点からのチェックを行い、非倫理的な要素が見つかった場合は差し戻すことが求められる。

デザイナーとは | 期待される役割 (2/2)

- デザイナーと他の人材類型が連携して進める業務の一例を示す
- どちらかがどちらかに指示をする、又は依頼する、といった形ではなく、様々な場面で二つ（又はそれ以上）の類型が協働関係を構築することを示すために、類型間の関係性を双方向の矢印によって表現している。



デザイナーのロール | ロールの定義

人材類型	ビジネスアーキテクト	デザイナー	データサイエンティスト	ソフトウェアエンジニア	サイバーセキュリティ
ロール	ビジネスアーキテクト (新規事業開発) ビジネスアーキテクト (既存事業の高度化) ビジネスアーキテクト (社内業務の高度化・効率化)	サービスデザイナー UX/UIデザイナー グラフィックデザイナー	データビジネス ストラテジスト データサイエンス プロフェッショナル データエンジニア	フロントエンドエンジニア バックエンドエンジニア クラウドエンジニア/SRE エンジニア フイジカルコンピューティング エンジニア	サイバーセキュリティ マネージャー サイバーセキュリティ エンジニア

◆ DX推進プロセスによるロール区分

- ✓ 「デザイナー」という類型を、業務の違いによって区分したものが「ロール」である。
- ✓ デザイナーは、**DX推進のあらゆるプロセス**（例：構想、実装、仮説検証、導入後の効果検証 等）**において活躍することが想定されるため**、わかりやすさの観点からこれらのプロセスを大括りに以下の3つに分け、それに沿ってロールを分解した。
 - ① バリュープロポジションの定義、製品・サービスのビジネスモデルやビジネスプロセスのデザイン、方針（コンセプト）の策定
 - ② 製品・サービスにおける顧客・ユーザー体験の検討、情報設計や機能や情報の配置、外観、動的要素のデザイン
 - ③ ブランドイメージの具現化、デジタルグラフィック、マーケティング媒体等のデザイン
- ✓ ②について、設計はUX（製品・サービスの顧客・ユーザー体験）を踏まえて行う必要があり、**UXを切り離して設計した製品・サービスではバリュープロポジションを実現できない可能性があるため、UXデザインとUIデザインは一体のロールとして定義**した。
- ✓ 企業のDXを進めていくうえでは、ここに示すロールの担い方はそれぞれである。企業規模や取組みテーマの規模などによって、**1つのロールを複数人で担う、若しくは1人が複数のロールを担うことも想定される**。
- ✓ また、これらのロールのうち、**DX推進をこれから始める企業が特に優先的に揃えた方がよいと思われるロールは、UX/UIデザイナー**であると考えられる。ただし、より規模の大きな企業において全社的な変革を進める場合は**サービスデザイナー**も重宝される場合がある。
 - 顧客・ユーザー体験の検討や製品・サービスの設計は、DX推進の取組みにおけるデザイナーのコアな業務である一方、サービスデザイナーはビジネスアーキテクト類型でも一定カバーすることができ、グラフィックデザイナーは専門性の高さから外注とする選択肢が考えられるため

デザイナーのロール | スキルマッピングの考え方

サービスデザイナー

- ✓ **「顧客・ユーザー理解」や「価値発見・定義」のスキルにおいて、知識とともに高い実践力が求められる。**
 - 顧客・ユーザーの課題特定や、バリュープロポジションの定義、製品・サービスの方針（コンセプト）の策定を行う際に必要
- ✓ **「戦略・マネジメント・システム」や「ビジネスモデル・プロセス」関連のスキルについても、ビジネスアーキテクトと協働しながら実践できる程度の知識と実践力を幅広く持ち合わせていることが求められる。**
 - 社会や社内外関係者（製品・サービス提供における関係者）の課題特定、製品・サービスの方針（コンセプト）を継続的に実現するための仕組みのデザイン、ビジネス視点からの実現可能性の検証をビジネスアーキテクトと協働して行う際に必要

UX/UIデザイナー

- ✓ **「顧客・ユーザー理解」や「価値発見・定義」「設計」のスキルにおいて、知識とともに高い実践力が求められる。**
 - 顧客・ユーザー体験の検討や、情報設計、機能や情報の配置、外観、動的要素のデザインを行う際に必要
- ✓ **「テクノロジー」関連のスキルや、顧客・ユーザーとの接点をデザインする際に必要な「プライバシー保護」のスキルについても、別類型（ソフトウェアエンジニアやサイバーセキュリティ等）と協働しながら実践できる程度の知識を幅広く持ち合わせていることが求められる。**
 - 製品・サービスのプロトタイプ作成を別類型（ソフトウェアエンジニアやサイバーセキュリティ等）と協働して行う際に必要

グラフィックデザイナー

- ✓ **「その他デザイン技術」のスキルにおいて、知識とともに高い実践力が求められる。**
 - デジタルグラフィック、マーケティング媒体等のデジタル関連のデザインや、事業や製品・サービスを展開する中での各種コンテンツのデザイン全般を行う際に必要
- ✓ **「マーケティング」や「ブランディング」のスキルについて、マーケティングやブランディングの専門家と協働しながら実践できる程度の知識と実践力をもち合わせていることが求められる。**
 - ブランドのイメージの可視化、具現化をマーケティングやブランディングの専門家と協働して行う際に必要

デザイナーのロール | 担う責任・主な業務・スキル (1/3)

人材類型	デザイナー																																																																																																																																	
ロール	サービスデザイナー																																																																																																																																	
DXの推進において担う責任	社会、顧客・ユーザー、製品・サービス提供における社内外関係者の課題や行動からバリュープロポジションを定義し製品・サービスの方針（コンセプト）を策定するとともに、それを継続的に実現するための仕組みのデザインを行う																																																																																																																																	
主な業務	<ul style="list-style-type: none"> 市場調査や顧客・ユーザー調査を通じて社会や顧客・ユーザー、製品・サービスを提供するステークホルダー全体の課題を特定し、顧客・ユーザー、事業、技術の観点を踏まえつつ、バリュープロポジションを定義する バリュープロポジションに基づき、製品・サービスの方針（コンセプト）を策定するとともに、それを継続的に実現するための仕組みのデザインを行う 仮説検証（PoC等）、本格導入、導入後のそれぞれの段階において、バリュープロポジションや製品・サービスの方針の実現可能性（実際に顧客・ユーザーに提供したい体験を提供できるか、顧客・ユーザーにとって有用か、ビジネスとして成立するか）を検証する 構想策定のプロセスの中で、共同作業や顧客・ユーザーの意見を集約し、同じゴールへ導くための場のデザイン（コーディネート）や、その場のファシリテートを行う 																																																																																																																																	
必要なスキル	<table border="1"> <thead> <tr> <th>カテゴリ</th> <th>サブカテゴリ</th> <th>スキル項目</th> <th>重要度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="12">ビジネス 変革</td> <td rowspan="6">戦略・マネジメント・システム</td> <td>ビジネス戦略策定・実行</td> <td>b</td> </tr> <tr> <td>プロダクトマネジメント</td> <td>b</td> </tr> <tr> <td>変革マネジメント</td> <td>b</td> </tr> <tr> <td>システムズエンジニアリング</td> <td>c</td> </tr> <tr> <td>エンタープライズアーキテクチャ</td> <td>c</td> </tr> <tr> <td>プロジェクトマネジメント</td> <td>c</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">ビジネスモデル・プロセス</td> <td>ビジネス調査</td> <td>b</td> </tr> <tr> <td>ビジネスモデル設計</td> <td>b</td> </tr> <tr> <td>ビジネスアナリシス</td> <td>b</td> </tr> <tr> <td>検証（ビジネス視点）</td> <td>b</td> </tr> <tr> <td>マーケティング</td> <td>b</td> </tr> <tr> <td>ブランディング</td> <td>c</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">デザイン</td> <td>顧客・ユーザー理解</td> <td>a</td> </tr> <tr> <td>価値発見・定義</td> <td>a</td> </tr> <tr> <td>設計</td> <td>b</td> </tr> <tr> <td>検証（顧客・ユーザー視点）</td> <td>a</td> </tr> <tr> <td>その他デザイン技術</td> <td>c</td> </tr> </tbody> </table>	カテゴリ	サブカテゴリ	スキル項目	重要度	ビジネス 変革	戦略・マネジメント・システム	ビジネス戦略策定・実行	b	プロダクトマネジメント	b	変革マネジメント	b	システムズエンジニアリング	c	エンタープライズアーキテクチャ	c	プロジェクトマネジメント	c	ビジネスモデル・プロセス	ビジネス調査	b	ビジネスモデル設計	b	ビジネスアナリシス	b	検証（ビジネス視点）	b	マーケティング	b	ブランディング	c	デザイン	顧客・ユーザー理解	a	価値発見・定義	a	設計	b	検証（顧客・ユーザー視点）	a	その他デザイン技術	c	<table border="1"> <thead> <tr> <th>カテゴリ</th> <th>サブカテゴリ</th> <th>スキル項目</th> <th>重要度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">データ 活用</td> <td rowspan="3">データ・AIの 戦略的活用</td> <td>データ理解・活用</td> <td>c</td> </tr> <tr> <td>データ・AI活用戦略</td> <td>c</td> </tr> <tr> <td>データ・AI活用業務の設計・事業実装・評価</td> <td>c</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">AI・ データサイエンス</td> <td>数理統計・多変量解析・データ可視化</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td>機械学習・深層学習</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td>データ活用基盤設計</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">データ エンジニアリング</td> <td>データ活用基盤実装・運用</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td rowspan="12">テクノロジー ソフトウェア開発</td> <td>コンピュータサイエンス</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td>チーム開発</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td>ソフトウェア設計手法</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td>ソフトウェア開発プロセス</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td>Webアプリケーション基本技術</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td>フロントエンドシステム開発</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td>バックエンドシステム開発</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td>クラウドインフラ活用</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td>SREプロセス</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td>サービス活用</td> <td>d</td> </tr> </tbody> </table>	カテゴリ	サブカテゴリ	スキル項目	重要度	データ 活用	データ・AIの 戦略的活用	データ理解・活用	c	データ・AI活用戦略	c	データ・AI活用業務の設計・事業実装・評価	c	AI・ データサイエンス	数理統計・多変量解析・データ可視化	d	機械学習・深層学習	d	データ活用基盤設計	d	データ エンジニアリング	データ活用基盤実装・運用	d	テクノロジー ソフトウェア開発	コンピュータサイエンス	d	チーム開発	d	ソフトウェア設計手法	d	ソフトウェア開発プロセス	d	Webアプリケーション基本技術	d	フロントエンドシステム開発	d	バックエンドシステム開発	d	クラウドインフラ活用	d	SREプロセス	d	サービス活用	d	<table border="1"> <thead> <tr> <th>カテゴリ</th> <th>サブカテゴリ</th> <th>スキル項目</th> <th>重要度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">テクノロジー</td> <td rowspan="3">デジタル テクノロジー</td> <td>フィジカルコンピューティング</td> <td>c</td> </tr> <tr> <td>その他先端技術</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td>テクノロジートレンド</td> <td>c</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">セキュリティ</td> <td rowspan="3">セキュリティ マネジメント</td> <td>セキュリティ体制構築・運営</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td>セキュリティマネジメント</td> <td>c</td> </tr> <tr> <td>インシデント対応と事業継続</td> <td>c</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">セキュリティ技術</td> <td>プライバシー保護</td> <td>c</td> </tr> <tr> <td>セキュア設計・開発・構築</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td>セキュリティ運用・保守・監視</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">パーソナル スキル</td> <td rowspan="2">ヒューマンスキル</td> <td>リーダーシップ</td> <td>z</td> </tr> <tr> <td>コラボレーション</td> <td>z</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">コンセプチュアル スキル</td> <td>ゴール設定</td> <td>z</td> </tr> <tr> <td>創造的な問題解決</td> <td>z</td> </tr> <tr> <td>批判的思考</td> <td>z</td> </tr> <tr> <td>適応力</td> <td>z</td> </tr> </tbody> </table>	カテゴリ	サブカテゴリ	スキル項目	重要度	テクノロジー	デジタル テクノロジー	フィジカルコンピューティング	c	その他先端技術	d	テクノロジートレンド	c	セキュリティ	セキュリティ マネジメント	セキュリティ体制構築・運営	d	セキュリティマネジメント	c	インシデント対応と事業継続	c	セキュリティ技術	プライバシー保護	c	セキュア設計・開発・構築	d	セキュリティ運用・保守・監視	d	パーソナル スキル	ヒューマンスキル	リーダーシップ	z	コラボレーション	z	コンセプチュアル スキル	ゴール設定	z	創造的な問題解決	z	批判的思考	z	適応力	z
カテゴリ	サブカテゴリ	スキル項目	重要度																																																																																																																															
ビジネス 変革	戦略・マネジメント・システム	ビジネス戦略策定・実行	b																																																																																																																															
		プロダクトマネジメント	b																																																																																																																															
		変革マネジメント	b																																																																																																																															
		システムズエンジニアリング	c																																																																																																																															
		エンタープライズアーキテクチャ	c																																																																																																																															
		プロジェクトマネジメント	c																																																																																																																															
	ビジネスモデル・プロセス	ビジネス調査	b																																																																																																																															
		ビジネスモデル設計	b																																																																																																																															
		ビジネスアナリシス	b																																																																																																																															
		検証（ビジネス視点）	b																																																																																																																															
		マーケティング	b																																																																																																																															
		ブランディング	c																																																																																																																															
デザイン	顧客・ユーザー理解	a																																																																																																																																
	価値発見・定義	a																																																																																																																																
	設計	b																																																																																																																																
	検証（顧客・ユーザー視点）	a																																																																																																																																
	その他デザイン技術	c																																																																																																																																
	カテゴリ	サブカテゴリ	スキル項目	重要度																																																																																																																														
データ 活用	データ・AIの 戦略的活用	データ理解・活用	c																																																																																																																															
		データ・AI活用戦略	c																																																																																																																															
		データ・AI活用業務の設計・事業実装・評価	c																																																																																																																															
	AI・ データサイエンス	数理統計・多変量解析・データ可視化	d																																																																																																																															
		機械学習・深層学習	d																																																																																																																															
		データ活用基盤設計	d																																																																																																																															
データ エンジニアリング	データ活用基盤実装・運用	d																																																																																																																																
	テクノロジー ソフトウェア開発	コンピュータサイエンス	d																																																																																																																															
チーム開発		d																																																																																																																																
ソフトウェア設計手法		d																																																																																																																																
ソフトウェア開発プロセス		d																																																																																																																																
Webアプリケーション基本技術		d																																																																																																																																
フロントエンドシステム開発		d																																																																																																																																
バックエンドシステム開発		d																																																																																																																																
クラウドインフラ活用		d																																																																																																																																
SREプロセス		d																																																																																																																																
サービス活用		d																																																																																																																																
カテゴリ		サブカテゴリ	スキル項目	重要度																																																																																																																														
テクノロジー		デジタル テクノロジー	フィジカルコンピューティング	c																																																																																																																														
	その他先端技術		d																																																																																																																															
	テクノロジートレンド		c																																																																																																																															
セキュリティ	セキュリティ マネジメント	セキュリティ体制構築・運営	d																																																																																																																															
		セキュリティマネジメント	c																																																																																																																															
		インシデント対応と事業継続	c																																																																																																																															
	セキュリティ技術	プライバシー保護	c																																																																																																																															
		セキュア設計・開発・構築	d																																																																																																																															
		セキュリティ運用・保守・監視	d																																																																																																																															
パーソナル スキル	ヒューマンスキル	リーダーシップ	z																																																																																																																															
		コラボレーション	z																																																																																																																															
	コンセプチュアル スキル	ゴール設定	z																																																																																																																															
		創造的な問題解決	z																																																																																																																															
		批判的思考	z																																																																																																																															
		適応力	z																																																																																																																															

【重要度凡例】
 a 高い実践力と専門性が必要 z 役割や状況に応じた実践力が必要
 b 一定の実践力と専門性が必要
 c 説明可能なレベルで理解が必要
 d 位置づけや関連性の理解が必要




デザイナーのロール | 担う責任・主な業務・スキル (2/3)

人材類型	デザイナー
ロール	UX/UIデザイナー
DXの推進において担う責任	バリュープロポジションに基づき製品・サービスの顧客・ユーザー体験を設計し、製品・サービスの情報設計や、機能、情報の配置、外観、動的要素のデザインを行う
主な業務	<ul style="list-style-type: none"> バリュープロポジションに基づき、顧客・ユーザーが製品・サービスとの接点においてとる行動や、行動に至る経緯・思考・感情を可視化し、製品・サービスの顧客・ユーザー体験を設計する 製品・サービスの方針（コンセプト）を、仕様・ガイドライン・デザインプリンシプル等の形に具体化し、顧客・ユーザーにとって心地よい体験を実現するための、製品・サービスにおける情報設計や、機能や情報の配置、外観、動的要素（Look&Feel）のデザインを行う PoCや本格導入、導入後のそれぞれの段階において、ブランディング、マーケティング施策と連動したWebやアプリケーション等のプロトタイプ作成を行う PoCや本格導入、導入後のそれぞれの段階において、ユーザビリティ評価（顧客・ユーザーが迷わず目的の情報までたどり着けたかの検証）を行う

カテゴリ	サブカテゴリ	スキル項目	重要度	カテゴリ	サブカテゴリ	スキル項目	重要度	カテゴリ	サブカテゴリ	スキル項目	重要度	
必要なスキル	戦略・マネジメント・システム	ビジネス戦略策定・実行	d	データ活用	データ・AIの戦略的活用	データ理解・活用	d	テクノロジー	デジタルテクノロジー	フィジカルコンピューティング	c	
		プロダクトマネジメント	c			データ・AI活用戦略	d			その他先端技術	d	
		変革マネジメント	d			データ・AI活用業務の設計・事業実装・評価	d			テクノロジートレンド	c	
		システムズエンジニアリング	d		AI・データサイエンス	数理統計・多変量解析・データ可視化	d		セキュリティ	セキュリティマネジメント	セキュリティ体制構築・運営	d
		エンタープライズアーキテクチャ	d			機械学習・深層学習	d				セキュリティマネジメント	d
		プロジェクトマネジメント	c			データ活用基盤設計	d				インシデント対応と事業継続	d
	ビジネス調査	d	データ活用基盤実装・運用	d	プライバシー保護	c						
	ビジネス変革	ビジネスモデル・プロセス	ビジネスモデル設計	d	テクノロジー	ソフトウェア開発	コンピュータサイエンス	c	セキュリティ技術	セキュア設計・開発・構築	d	
			ビジネスアナリシス	d			チーム開発	b		セキュリティ運用・保守・監視	d	
			検証（ビジネス視点）	d			ソフトウェア設計手法	c	パーソナルスキル	コンセプトチュアルスキル	リーダーシップ	z
			マーケティング	b			ソフトウェア開発プロセス	c			コラボレーション	z
			ブランディング	c			Webアプリケーション基本技術	c			ゴール設定	z
			顧客・ユーザー理解	a			フロントエンドシステム開発	c			創造的な問題解決	z
	デザイン	デザイン	価値発見・定義	a	バックエンドシステム開発	c	批判的思考	z				
			設計	a	クラウドインフラ活用	c	適応力	z				
			検証（顧客・ユーザー視点）	a	SREプロセス	c	【重要度凡例】 a 高い実践力と専門性が必要 b 一定の実践力と専門性が必要 c 説明可能なレベルで理解が必要 d 位置づけや関連性の理解が必要					
			その他デザイン技術	c	サービス活用	c						

活用イメージ

- 活用主体として3者（組織・企業/個人/研修事業者）を想定し、主体別に活用のイメージと具体例を以下の通り示す。

	活用主体例	活用イメージ	活用の具体例
組織・企業 	<ul style="list-style-type: none"> • DX推進の取組みを行いたい経営者 • DXを推進する人材を育成したい組織（企業の人事部門） • DXを推進する人材を採用したい組織（企業の人事部門、人材紹介会社等） 	<ul style="list-style-type: none"> • 社会の変化を踏まえ、自社に必要なDXを推進するための戦略を策定し、スキル標準を参考に、自社のDX推進に必要な人材を確保するための取組みを実行する 	<ul style="list-style-type: none"> • スキル標準を参考に、DX推進に必要な人材のスキル・知識が自社でどれくらい足りていないかを可視化する • 必要な人材を育成するために、スキル項目や学習項目例を参考に自社の研修ラインナップの見直しを行う • 必要な人材を採用するために、ロールの定義やスキル項目、学習項目例を参考に職務記述書の作成を行う
個人 	<ul style="list-style-type: none"> • 社内のDX推進プロジェクトにアサインされた人 • DXを推進する人材としてのキャリアを志向する人 	<ul style="list-style-type: none"> • 所属する組織・企業のDXの方向性や、個人のキャリアを踏まえて、スキル標準を必要な知識やスキルを認識するための指針とする • 自身の業務やキャリアの中での実践イメージを持ちながら、それらに関する研修コンテンツを受講する 	<ul style="list-style-type: none"> • スキル標準を参考に、自身が目指すべき役割は何か、課せられている役割がスキル標準のどのロールに近いのかを考える • 学習項目例を参考に、研修コンテンツに関する情報を収集し（例：マナビDXへのアクセス、自社の研修コンテンツの確認）必要な知識やスキルに関するコンテンツを選択、学習する
研修事業者 	<ul style="list-style-type: none"> • 学習コンテンツを提供する会社 	<ul style="list-style-type: none"> • スキル習得のために必要な学習項目を示し、組織・企業や個人に向け、それらの内容の説明や、アウトプット・実践のための機会提供を行う 	<ul style="list-style-type: none"> • 知識やスキルの習得のために必要な学習項目を示し、学習効果を高めることを重視した研修コンテンツを提供する（例：定着度確認のための確認テストの実施、ワークショップや実践機会などの多様な形式での提供 等）

【再掲】デジタル人材育成プラットフォーム

デジタルスキル標準 (DSS)

- ・2022年12月末に、デジタル技術を活用して競争力を向上させる企業等に所属する人材を対象としたスキル標準を公開。
- ・「DXリテラシー標準」は全てのビジネスパーソン、「DX推進スキル標準」は企業・組織において専門性を持ってDXの取組みを推進する人材（DXを推進する人材）を対象としています。

デジタルスキル標準 (DSS)

DXリテラシー標準 (DSS-L)

DX推進スキル標準 (DSS-P)

項目一覧

DXリテラシー標準の紹介

Why DXの背景

What DXで活用されるデータ・技術

How データ・技術の利活用

DXリテラシー標準の全体像

DX推進スキル標準の構成

スキル	レベル	説明
デジタルリテラシー	基礎	デジタル技術の基本的な知識とスキルを習得する。
デジタルリテラシー	応用	デジタル技術を活用して業務効率化を図る。
デジタルリテラシー	高度	デジタル技術を活用して新たなビジネスモデルを開発する。

マナビDX (デラックス)

- ・2022年3月末にデジタル知識・能力を身につけるための学びの場である、オンライン教育サイト「マナビDX」を開設。
- ・2023年3月1日にリニューアル版（UI/UXを改善）を公開し、デジタルスキル標準と紐付けされた講座を掲載しています。

マナビDX MANABI-DELUXE

講座一覧 マナビDXとは マナビDXでの学び方 講座提供希望の事業者の方へ

スキル標準から探す 何を学びたいですか?

マナビDXは **すべての人** に **学びの場** を提供します

- かんたん
- あんしん
- うれしい

- 登録不要
- ログイン不要
- 政府運用サイト
- 審査済み講座
- 無償の講座多数
- 前枠知識不要

マナビDXとは

デジタルリテラシー講座

すべてのビジネスパーソンに必要なとされるデジタルリテラシーを学習できる講座を探すことができます。

- Why (DXの背景)
- What (DXで活用されるデータ・技術)
- How (データ・技術の利活用)
- マインド・スタンス

デジタル実践講座

デジタル技術を活用し、組織の競争力を高める推進役に必要とされるスキルを職種別に探すことができます。

ビジネスアーキテクト

- 新規事業開発
- 既存事業の高度化
- 社内業務の高度化・効率化

デザイナー

- サービスデザイナー

ご清聴ありがとうございました